

令和 4 年 度

# 事業報告書

自：令和 4 年 4 月 1 日

至：令和 5 年 3 月 3 1 日

## 目次

<b>I</b>	<b>法人経営に関する事項</b>	1
	1. はじめに／理事長総括	1
	2. 財務状況・財産状況	2
	3. 広報・啓発活動に対する取り組み	3
	4. その他の法人経営に関する取り組み	4
<b>II</b>	<b>法人の現況に関する事項</b>	7
	1. 法人概要	7
	2. 役員・評議員等の状況	8
	3. 理事会開催の状況	9
	4. 評議員会開催の状況	9
	5. 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況	9
	6. 監査等の状況	10
	7. 運営事業の状況及び事業利用者の推移	11
	8. 地域における公益的な取組の状況	11
	9. 職員の状況	11
	10. その他	14
<b>III</b>	<b>部門・各事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）</b>	15
	A 総務部	15
	1. 総務課	15
	B 日中活動支援事業部	17
	2. 仙台つどいの家	17
	3. つどいの家・コペル	19
	4. つどいの家・アプリ	22
	5. 八木山つどいの家	25
	6. 若林障害者福祉センター（生活介護等）	28
	C 地域生活支援事業部	30
	7. 地域生活サポートセンター「びぼっと南光台」	30
	8. 地域生活サポートセンター「びぼっと支倉」	33
	9. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」	35
	10. グループホーム（共同生活援助事業）	38
<b>IV</b>	<b>参考資料</b>	41
	1. 利用実績（日中活動支援事業部門）	42
	2. 利用実績（地域生活支援事業部門）	45
	3. 寄附金受領状況	53
	4. 地域における公益的な取り組みに関する状況等	55
	5. 法人会議・委員会実施状況	57
<b>V</b>	<b>附属明細書</b>	61

## I 令和4年度 法人経営に関する事項

### 1. はじめに / 理事長総括

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する対策を徹底しながらそれぞれの事業を運営する日々も3年を過ぎました。重度の利用者が多いつどいの家にとってはコロナの影響も大きく、昨年度、コロナ関連で延べ1,000人日を超える通所欠席者が発生するなど運営が大きく制限されたほか、感染拡大に伴うサービスの提供控え、突発的な事情による中途退所なども相俟って経営環境は極めて厳しく、2年連続の赤字決算という結果を招いてしまいました。

つどいの家は、利用者本人の意思を大切に、個人の特性を理解したうえで本人主体の個別支援を進めることを行動指針としており、多くの重度の利用者を支援するため国の給付費算定上の想定基準を上回る数の多くの担い手を確保し、使命感や専門性を高め本人理解を深めながら運営するように努めています。こうした支援を、日々の通所者数に応じて「スキマバイト」のようにその日その日で都合よく確保して実施することはできず、結果的に、運営費用に占める人件費の比率が極めて高い事業構造とならざるを得ません。そのため、低いレベルの給付費単価設定に加え、通所控え等による支援の実績の減少が収入の減少に直結する現行制度の下では、事業運営の困難は暫く継続するものと覚悟し、制度的に認められている収入確保策を徹底的に追及するなど工夫を重ね続ける必要があります。

決算年度においては、このような環境の中でも、市中の感染状況を見極めつつ、地域交流等各種イベントの工夫を凝らしながらの開催、外出活動の緩和と制限の適時見直し、介護職員初任者研修事業の拡大、ガイドヘルパー養成講座開設準備、集客による上映会開催等啓発活動、国の動きを注視する必要がある中での成年後見に関する調査研究着手等を行えたことは、今後の活動につながるものと考えます。

感染症法上の分類が5類となり、平常時に戻るとの触れ込みがあふれる中、みなし通所の特例措置の廃止も伝わってくるなど感染対策や様々な支援措置が軽んじられつつありますが、利用者本位に感染対策を徹底しつつ、つどいの家らしさを失うことなく地域とのつながりを深め、広げる取組など活動の幅を広げる方途を全職員で探りながら、事業運営の安定、継続を図っていきたいと思います。

## 2. 財務状況・財産状況

### (1) 財務状況の推移

(単位:千円)

勘定科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	前年度比
サービス活動収益(1)	842,889	837,163	894,062	0.7%
サービス活動費用(2)	913,600	904,721	876,932	1.0%
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 70,701	△ 67,588	17,130	－%
サービス活動外増減差額(4)	6,497	6,568	7,993	△ 1.1%
経常増減差額(5=3+4)	△ 64,204	△ 60,990	25,123	－%
特別増減差額(6)	4,534	14,084	12,130	△ 67.8%
当期活動増減差額(7=5+6)	△ 59,670	△ 46,906	37,254	－%

### (2) 資産・負債等の推移

(単位:千円)

勘定科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	前年度比
資産合計	1,058,986	1,154,272	1,217,637	△ 8.3%
負債合計	191,709	202,009	196,668	△ 5.1%
純資産合計	867,277	952,263	1,020,968	△ 8.9%

### (3) 借入金の状況

(令和5年3月31日現在)

借入先	借入用途	元金残高(千円)
独立行政法人 福祉医療機構	ひかりはうす(GH)不動産取得・改修資金	2,093
独立行政法人 福祉医療機構	アプリ土地取得・建設資金	32,388
独立行政法人 福祉医療機構	仙台つどいの家災害復旧資金	19,080
七十七銀行	つどいの家・コペル設備整備資金	7,482
(借入金 合計)		61,043

※令和4年度新規借入額:なし

(前年度より11,304千円減)

### (4) 補助金・寄附金等の状況

(単位:千円)

補助種別	令和4年度	令和3年度	令和2年度	前年度比
事業運営費	42,990	38,661	64,091	11.2%
人件費(職員加配)	32,160	34,122	37,954	△ 5.7%
施設設備整備等	9,880	9,026	2,110	9.5%
その他	5	6	6	△ 16.7%
寄附金	16,483	22,757	21,494	△ 27.6%

※詳細は、「IV 参考資料」に掲載

### 3. 広報・啓発活動に関する取り組み

#### (1) 法人広報誌発行

広報誌「つどい」第34号 令和4年7月30日発行（発行部数：1,450部）

（テーマ）令和3年度を振り返って/事業報告・決算報告など

同 第35号 令和4年11月30日発行（発行部数：1,750部）

（テーマ）相談支援事業特集など

#### (2) ホームページによる情報開示と支援者との継続的な関係性構築に向けて

社会福祉法並びに法人定款に規定する福祉サービスの質の向上と事業経営の透明性の確保を図るため、法人の現況報告書や財務諸表等をホームページ上で開示しました。

また、法人が運営する各事業の取り組みを広報することを通して、社会からの共感を得ながら様々な支援に繋がられるよう、または求職者の興味関心を得て人材確保に結び付けられるよう、ホームページ上で常に新しい情報の更新に努め、法人及び事業運営に係る様々な取り組みを積極的に発信しました。

このほかWeb以外にも、寄付報告及び募集チラシを作成し、これまで支援をいただいた人への感謝を改めて示しながら継続的な関係性の構築に努めるとともに、新たな支援者の獲得としようがい者理解の裾野を広げる取り組みに結びました（寄付金受領状況は参考資料IVに掲載）。

#### (3) 啓発活動

法人の基本理念に従い、社会への啓発活動の一環として後援会との共催で上映会を開催しました。新型コロナウイルスの感染対策からオンラインセミナーが続いておりましたが、令和4年度は3年ぶりの集客型の開催となりました。

内 容 : 上映会「普通に死ぬ～いのちの自立～」(貞末麻哉子監督作品)

テーマ : 医療的ケアを必要とする人が親亡き後に地域で生きること、本人の想いと家族・支援者・医療者の葛藤や気づきなど

日 時 : 令和4年10月26日(水)

参加数 : 218名(3回上映総数)

成果等(参加者からいただいたご意見等/講演後のアンケートより一部抜粋)

- ・ いのちの自立とはなんと素晴らしい理念でしょうか。その実践をととても感動しながら拝見しました。これからもまた紹介してください。(70代・無職)
- ・ 重心の入所施設に長い間勤務していた1人として考えさせられることばかりでうまくまとまりません。いい宿題を頂いたような感じです。仲間と話し合っていこうと思います。  
(60代・自営業)
- ・ とても勇気づけられる映画でした。友達は題名で怖がっていましたがもっと皆に見てほしいと思いました。良い映画をありがとうございました。(40代・会社員)
- ・ 学ぶことが多くありました。支援の手が届かない、足りない、整わない現状に心苦しくなりました。福祉を目指す学生として制度を学び、技術の習得を頑張りたいです。

(20代・学生)

ほか、多数

#### 4. その他の法人経営に関する取り組み

##### (1) 福祉サービス等における苦情対応など

###### 【苦情解決委員会実施状況】

日 時	協議内容	出席者数
第1回 R4.11.11（金）	令和4年度上半期(4～9月)における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 3名／3名 受付担当者名 6名／9名 解決責任者 6名／7名
第2回 R5.3.9（木）	令和4年度下半期(10～3月)における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 2名／3名 受付担当者 5名／9名 解決責任者 4名／7名

###### 【苦情対応の状況】

事業所名	主たる内容	解決有無
つどいの家・アプリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者への対応について保護者より苦情。</li> <li>公用車の運転について、地域の方より苦情。</li> <li>公用車の運転について地域の方から苦情。</li> <li>利用者当所時の職員の対応について保護者から苦情。</li> <li>広報誌の記事について記事関係者より苦情。</li> </ul>	解決済
八木山つどいの家	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車について地域の方より苦情。</li> <li>職員の対応について実習生より苦情。</li> </ul>	解決済
若林障害者 福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修時の地域生活支援事業の利用制限について保護者より苦情</li> <li>吸引機等の取り扱いについて、保護者より苦情。</li> </ul>	解決済
びぼっと南光台	<ul style="list-style-type: none"> <li>チラシ配布について、近隣の方より苦情。</li> <li>介護人の言動に対し、保護者より苦情。</li> <li>介護人の支援や言動に対し、保護者より苦情。</li> <li>外出支援時の対応について保護者より苦情。</li> <li>すてっぷ・はうす宿泊時の対応について保護者より苦情。</li> <li>すてっぷ・はうす宿泊時の服薬について保護者より苦情。</li> </ul>	解決済
※合計15件（内訳）事業所の近隣住民からの苦情 6件 利用者・保護者9件 職員0件		

##### (2) 介護職員初任者研修事業の実施

財務上の課題や人材不足等に対応するため、令和元年度より事業化した介護職員初任者研修も4年目が終了しました。令和4年度も、新型コロナウイルスの影響を受け、感染拡大時には受講生が減りましたが、口コミ等で少しずつ浸透してきたのか問い合わせ数も多くなり、受講者数は前年度の計13名から、計20名に増加しました（外部受講者13名）。受講者の中には当法人での勤務を希望される方や、実際に雇用に結びついた方もおり、少数ですが人材の確保にもつながっております。

今後も人材の確保のみならず、一般市民等多くの方々にはしょうがい分野に興味を持ってもらい、理解を深めてもらえるよう努めてまいりたいと思います。

◇これまでの実施状況

年 度	開催数	受講者総数	うち外部受講者	うち当法人に 就労が繋がった数
2019 (R1)	3回 (クール)	18名	5名	0名
2020 (R2)	3回 (クール)	6名	4名	1名(*1名)
2021 (R3)	3回 (クール)	13名	7名	0名(*3名)
2022 (R4)	4回 (クール)	20名	13名	1名

\*本研修を修了し、当法人への就労を希望するも諸般の事情等でマッチングしなかった者の数を指す。

(3) ガイドヘルパー養成事業開設に向けた取組み

これまで、介護職員初任者研修（初任研）の実施により居宅介護並びに移動支援従事者の養成と従業者確保の取組みを進めてきました。しかしながら移動支援事業については、まだまだニーズに対して十分な職員確保ができていない状況です。解決に向けた取組みとしてサービス提供に必要な資格取得間が初任研と比べ少なく、取得しやすいガイドヘルパー養成事業を開講し移動支援従事者になってもらうことで、移動支援事業のニーズに対応していきます。

➤ ガイドヘルパー養成事業開設に向けた準備

9/6	市長要望	ガイドヘルパー制度の利用について
9/20	仙台市担当課訪問	要綱・研修制度の確認
11/24	宮城県担当課訪問	申請書類の書類・内容の確認
11/29	東京都視察研修（総務、管理者、サビ責） ・NPO 法人だれもがともに小平ネットワーク ・社会福祉法人せたがや檜の木会	・行政主導（委託）の養成講座 ・複数法人が連携した養成講座 ・ガイドヘルパーの定着
12/23	ガイドヘルパー養成講座事業計画内部承認	
2/18-19	大阪府視察研修（総務、若手ヘルパー職員） ・NPO み・らいず2	・学生メインのガイドヘルパー運営 ・学生ボラと協働した広報
3/15	理事会	事業開設の承認
3/17	ガイドヘルパー養成講座事業申請	

➤ 事業開設に向けた検討会議

申請関係	8/16、10/24、11/2、12/7、1/31 計5回
運営関係	11/4、11/16、12/2、3/2 計4回

➤ 検討内容及び担当者

申請関係	事業申請、研修受付事務、研修運営財源 等	総務、事業管理者 等
運営関係	講座内容、就業定着支援、事業広報、利用管理 等	総務、事業管理者・サビ責 等

➤ ガイドヘルパー養成事業実施計画案

年 度	開催数	定員	実施月
2023 (R5)	4回	10名	6月、8月、10月、1月
2024 (R6) 以降	10回	10名	5月～2月（各月1回）

(4) 新型コロナウイルス感染対策に関する対応

新型コロナウイルス感染症の罹患状況等は以下のとおりです。通所施設においては感染予防のため、利用控えする利用者も増えました。(※利用控えによる欠席の場合、みなし通所として給付費請求可。)

➤ 利用者、職員等の感染とそれに伴う諸対応など

No	事業所名	感染者数	延べ欠席者数 (利用控えによる欠席含む)	休館 対応	外部公表 (ホームページ)
1	つどいの家・アプリ	利用者 9 名 職員 12 名	744 名	0 日	5/10、11/11、11/24 付け公表
2	仙台つどいの家	利用者 20 名 職員 11 名	119 名	5 日	8/26、11/21 付け 公表
3	つどいの家・コペル	利用者 5 名 職員 8 名	248 名	0 日	8/26 付け公表
4	若林障害者福祉センター	利用者 7 名 職員 8 名	16 名	1 日	8/29、11/21 付け 公表
5	八木山つどいの家	利用者 5 名 職員 4 名	29 名	1 日	9/20 付け公表
6	グループホーム	利用者 7 名	—		8/25、9/22 付公表
7	ぴぼっと支倉	職員 1 名	—	—	
8	ぴぼっと南光台	職員 1 名	—	—	

➤ 新型コロナウイルス感染症に関する補助金等の活用状況

補助事業名	内 容	交付額
仙台市障害福祉サービス事業所等に対する サービス継続支援事業助成金	感染防止対策・職員の業務手当	335,000 円
感染拡大防止対策助成金	感染防止対策	21,340 円
合 計		356,340 円

(5) その他事務手続き

◆ 登記に関する事項

- ・資産総額変更登記 (6/30)

◆ 行政手続き

- ・社会福祉法人現況報告書等提出/仙台市 (6/27)

◆ 法人内部規程・基準等の整備

- ・定款 /改正
- ・就業規則 /改正
- ・賃金規程 /改正
- ・経理規程 /改正
- ・(各事業)運営規程 /改正
- ・ガイドヘルパー養成研修事業運営規程 /創設

◆ 仙台市長への要望書提出

(令和4年9月6日付 法人単独提出)

(令和4年8月30日付 仙台市知的障害者関係団体連絡協議会共同提出)

1. 障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業の補助対象事業拡大について
2. 重症心身障害の方の住まいの場となるグループホームの増設に向けて
3. 医療的ケアが必要な方にも短期入所事業を利用しやすいように、市単独の補助制度の創設をお願いいたします。
4. 地域生活支援事業「移動支援事業」におけるサービス提供者の資格要件見直しについて



## II 法人の現況に関する事項

### 1 法人概要

- (1) 法人名称 社会福祉法人 つどいの家  
 (2) 主たる事務所の所在地 仙台市若林区上飯田1丁目17番58号  
 (3) 事業種別

第2種社会福祉事業	障害福祉サービス事業の経営 (生活介護、居宅介護等、指定特定相談等、共同生活援助、短期入所事業) 相談支援事業の経営 障害児等療育支援事業の経営 移動支援事業の経営 障害児通所支援事業の経営 ※令和4年9月30日まで
公益事業	福祉有償運送事業 介護員養成研修事業 日中一時支援事業

### (4) 事業の種類及び名称など (令和5年3月31日現在)

事業所名称	所在地(仙台市)	管理者	実施事業	定員	登録数
仙台つどいの家	宮城野区幸町3	山口 収	生活介護	35名	43名
つどいの家・コペル	若林区上飯田1	大畧貴司	生活介護	40名	47名
つどいの家・アプリ	太白区山田本町	加藤裕絵	生活介護	35名	37名
八木山つどいの家	太白区八木山本町1	佐々木健	生活介護	20名	15名
若林障害者福祉センター	若林区遠見塚東	小原弥生	生活介護	概ね8名	13名
びぼっと南光台	泉区南光台3	三浦郁美	居宅介護等	—	136名
			短期入所等 (※1)	—	262名
			福祉有償運送	—	9名
びぼっと支倉	青葉区支倉町	飯田克也	指定特定相談	—	192名
			指定障害児相談	—	33名
			指定一般相談	—	159名
			委託相談支援	—	230名
			短期入所等	—	※1 共通
ピボット若林	若林区遠見塚2	飯田克也	指定特定相談	—	138名
			指定障害児相談	—	6名
			指定一般相談	—	42名
			委託相談支援	—	79名
			居宅介護等	—	19名
			短期入所等	—	※1 共通
ひこうき雲	若林区沖野3、他	飯田克也	共同生活援助	23名	23名

2 役員・評議員等の状況 (令和4年度内就任者の状況/令和5年3月31日現在)

(1) 理事・監事

(理事定数: 6名 監事: 2名)

役職名	氏名	兼職状況	特殊関係等	理事会出席状況	備考
理事長	佐藤 清	理事長	なし	4回/4回(100%)	
常務理事	佐藤 吉久	職員・総務部長	なし	4回/4回(100%)	
理事	下郡山 和子		なし	4回/4回(100%)	
理事	菅井 裕行	大学教授	なし	3回/4回(75%)	
理事	山口 収	職員・日中活動支援部長	なし	4回/4回(100%)	
理事	飯田 克也	職員・地域生活支援部長	なし	3回/4回(75%)	
監事	三浦 俊一		なし	4回/4回(100%)	
監事	大谷津 敏	税理士	なし	3回/4回(75%)	

\*任期: 令和3年6月25日から令和5年6月の定時評議員会終結の時まで

(注) 社会福祉法第40条第4項及び第5項並びに社会福祉法施行規則第2条の7及び第2条の8に規定する欠格事由に該当する者又は親族関係にあるなどの特殊の関係にある者の有無をいう。

(2) 評議員

(評議員定数: 7名)

氏名	兼職状況	特殊関係等	評議員会出席状況	備考
細井 実	他法人理事長	なし	2回/3回(67%)	
久保野恵美子	大学院教授	なし	2回/3回(67%)	
萩野谷 和裕	県立病院副院長・医師	なし	2回/3回(67%)	
中山 伸枝		なし	3回/3回(100%)	
井上 博	他法人理事長	なし	2回/3回(67%)	
渡邊 好孝	県理学療法士会 会長	なし	3回/3回(100%)	
田中 伸弥	他法人理事長	なし	1回/3回(33%)	
※監事の評議員会出席状況				
三浦 俊一		なし	3回/3回(100%)	
大谷津 敏	税理士	なし	3回/3回(100%)	

\*評議員任期: 令和3年6月28日から令和7年6月の定時評議員会の終結の時まで

(3) 評議員選任・解任委員

(委員定数: 3名)

氏名	区分	委員会出席状況	備考
三浦 俊一	監事	開催なし	
小林 龍之	事務職員		
後藤 道子	外部委員		

\*任期: 令和3年1月28日から令和6年6月の定時評議員会の終結の時まで

### 3 理事会開催の状況

月 日	議案内容
第1回 R4.5.24 (火)	第1号 苦情解決第三者委員の選任に関する件
	第2号 令和3年度事業報告に関する件
	第3号 令和3年度決算報告及び監査報告に関する件
	第4号 賃金規程の一部改正案に関する件
	第5号 令和4年度第1回(定時)評議員会の招集等に関する件
第2回 R4.9.26 (月)	第1号 生活介護事業所の統合及び運営規程の改正案に関する件
	第2号 育児休業及び育児短時間勤務等に関する規則の一部改正案に関する件
	第3号 令和4年度第一次補正予算案に関する件
	第4号 常勤職員就業規則等の改正及び管理者の選任に関する件
	第5号 令和4年度第2回評議員会の招集等に関する件
第3回 (書面表決) 表決日: R5.1.12(木)	第1号 運営規程の一部改正案に関する件
第4回 R5.3.15 (水)	第1号 令和4年度第2次補正予算案に関する件
	第2号 ガイドヘルパー養成事業の創設案に関する件
	第3号 定款の一部改正案に関する件
	第4号 就業規則等の一部改正案に関する件
	第5号 管理職人事案に関する件
	第6号 令和5年度事業計画案に関する件
	第7号 令和5年度当初予算案に関する件
	第8号 令和4年度第3回評議員会の招集等に関する件

### 4 評議員会開催の状況

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回(定時) R4.6.10 (金)	第1号 令和3年度事業報告に関する件	可決	評議員 5名 監事 2名 (WEB参加3名)
	第2号 令和3年度決算報告及び監査報告に関する件		
第2回 R4.10.14 (金)	第1号 令和3年度第1次補正予算案に関する件	可決	評議員 5名 監事 2名 (WEB参加4名)
第3回 R5.3.29 (水)	第1号 令和4年度第2次補正予算案に関する件	可決	評議員 5名 監事 2名 (WEB参加4名)
	第2号 定款の一部改正案に関する件	可決	
	第3号 令和5年度事業計画案に関する件	可決	
	第4号 令和5年度当初予算案に関する件	可決	

### 5 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況

#### (1) 評議員選任・解任委員会

令和4年度開催実績なし

(2) その他の会議・委員会

部門	名 称	実施回数	部門	名 称	実施回数
主要会議	経営会議	12回	経営部門	事業運営会議	12回
	人事委員会	15回		防災委員会	5回
	法人衛生委員会	4回		職員研修委員会	5回
	各所衛生委員会	別記		研修体系等検討会	4回
	権利擁護・虐待防止委員会	6回		びぼっと南光台事務棟改築P会議	3回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	3回		事業運営部門	ICT利活用検討会
	PT・OT連絡会	2回	日中活動支援事業部連絡会議		11回
	看護師連絡会	5回	地域生活支援事業部連絡会議		10回
	サービス管理責任者連絡会	4回	相談支援事業検討会議		6回
	南北グループホーム連絡会	12回	重度障害者支援加算検討会		3回
	採用チーム連絡会	5回	医療的ケア検討会		3回
	総務ミーティング	33回	居住支援等事業検討会議		3回

※主たる内容や成果又は次年度への課題等については別添参考資料参照

6 監査等の状況

(1) 監事監査

実施日	監査内容	監査員	指摘事項等
R4.5.16(月)	事業年度(令和3年度)に係る業務執行状況及び財産状況	三浦監事 大谷津監事	計算書類と固定資産管理台帳及び付属明細書との相違。固定資産の耐用年数等について確認。 理事会等議事録、各種委員会、研修の実施状況、採用についての取り組み等確認。
R4.11.18(金)	令和4年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認など	大谷津監事	固定資産の減価償却、ICカードの管理、帳簿のファイリングや通帳の保管等についてアドバイスを頂く。

(2) 外部機関等による監査など

項目	監査・調査内容	監査員	(文書) 指摘事項等
行政監査等 集団指導 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため集団講義なし(資料閲覧・Web)	事業所運営及び障害福祉サービス等の届出等に係る留意事項、障害者虐待防止の取り組み、障害福祉サービス事業者等におけるBCP(業務継続計画)策定のポイント等	—	
※その他事業所実地監査については実施なし			

## 7 運営事業の状況及び事業利用者の推移

実施事業	令和4年度 利用総数	令和3年度 利用総数	令和2年度 利用総数	前年度比
生活介護 ※特例生活介護・児童発達支援を含む	29,452 (名)	29,394 (名)	30,131 (名)	0.2 %
居宅介護	19,283.5 (時間)	20,460.0 (時間)	21,774.5 (時間)	△ 5.8 %
重度訪問介護	1,070.0 (時間)	967.5 (時間)	1,047.0 (時間)	10.6 %
行動援護	0.0 (時間)	0.0 (時間)	0.0 (時間)	— %
同行援護	635.0 (時間)	304.0 (時間)	421.5 (時間)	108.9 %
移動支援	4,874.0 (時間)	3,434.5 (時間)	6,581.0 (時間)	41.9 %
短期入所	523 (日)	668 (日)	740 (日)	△ 21.7 %
日中一時支援	4,418 (時間)	5,909 (時間)	7,955 (時間)	△ 25.2 %
指定特定相談支援 (計画)	343 (件)	430 (件)	437 (件)	△ 20.2 %
〃 (モニタリング)	1,032 (件)	1,133 (件)	1,298 (件)	△ 8.9 %
委託相談支援事業	3,530 (件)	3,071 (件)	4,512 (件)	14.9 %
障害児等療育支援事業 (訪問)	237 (件)	97 (件)	75 (件)	144.3 %
〃 (外来)	4 (件)	8 (件)	15 (件)	△ 50.0 %
福祉有償運送事業	5 (件)	18 (件)	82 (件)	△ 72.2 %
共同生活援助	7,955 (名)	8,411 (名)	8,306 (名)	△ 5.4 %

(注1) 障害者家族支援等推進事業は令和2年9月30日をもって廃止。同年10月より短期入所・日中一時支援に移行

(注2) 特例生活介護・児童発達支援は令和4年9月30日をもって廃止。同年10月より生活介護に吸収統合

## 8 地域における公益的な取組の状況

社会福祉法第24条第2項の規定に基づき、当法人が培ってきた専門性やノウハウ等を活かし、地域住民や関係団体、機関等との連携のもと、地域における福祉ニーズの把握に努め、社会課題の解決に向けた公益的な取組みを実践しました。詳細は、「IV 参考資料」に掲載しています。

## 9 職員の状況

(1) 職員数の現況と推移 (令和5年3月31日現在)

職員数	前年度比	平均年齢	平均勤続年数
234名	1名減	47.5歳	9年4ヶ月
(内 訳) 常勤118名、準常勤16名 非常勤75名、嘱託18名 登録ヘルパー7名	(内 訳) 常勤2名減、準常勤2名増 非常勤等1名減	(内 訳) 常勤 41.6歳 非常勤等 55.3歳	(内 訳) 常勤 10年4ヶ月 非常勤等 7年11ヶ月

## (2) 入退職者の状況

### 【入職者状況】

雇用形態	新規学卒者	既卒者	現役学生等	合計
常勤職員	10名(3名)	8名(10名)	0名(0名)	18名(13名)
準常勤職員	0名(0名)	1名(1名)	0名(0名)	1名(1名)
非常勤職員	0名(0名)	5名(6名)	2名(2名)	7名(8名)
登録ヘルパー	0名(0名)	0名(0名)	0名(0名)	0名(0名)
嘱託職員	0名(0名)	5名(3名)	0名(0名)	5名(3名)
合計	10名(3名)	19名(20名)	2名(2名)	31名(25名)

### 【退職者状況】

勤続年数 雇用形態	1年未満	～3年未満	～5年未満	～10年未満	10年以上	合計	離職率
常勤	4名 (3名)	2名 (3名)	4名 (1名)	1名 (2名)	2名 (4名)	13名 (13名)	9.7% (10.3%)
非常勤等	2名 (8名)	2名 (7名)	6名 (1名)	1名 (6名)	0名 (2名)	11名 (24名)	11.0% (25.5%)
合計	6名 (11名)	4名 (10名)	10名 (2名)	2名 (8名)	2名 (6名)	24名 (37名)	10.2% (15.7%)

※ ( ) 内は前年度数を表記

## (3) 新職員確保に向けた取り組み

コロナ禍にあっても、しょうがい分野を知ってもらうための取り組みを継続して行っています。

- ▶ 就職説明会（法人独自）の開催や民間団体等主催就職説明会への参加
    - ・参加者 31名（うち法人独自開催 17名）
  - ▶ インターンシップ生の受け入れ及び社会福祉士実習の受け入れと大学キャリアセンター等との連携など
    - ・インターンシップ 22名（うちWEBインターンシップ2名）
    - ・社会福祉士資格取得のための社会福祉援助技術実習の受入 3名
- ※ その他、しょうがい理解を深めるための対面やオンラインを利用したゲストスピーカーを実施しています。
- ▶ 「若者雇用促進法」に基づく『ユースエール認定企業』としての認定
    - ・2018年度に認定を受けた『ユースエール認定企業』の更新

#### (4) 職員研修システムの遂行

##### <職 制>

月	日	項 目	内 容	参加者数
12	16	全体研修 オンライン	「つどいの家実践発表会」 ・各事業所の実践発表 テーマ「支援」 ・支援の取り組みを映像等にまとめ発表 ・各事業所の取り組みを共有し、連帯感と職員相互の実践を称えあう	121名
6	17	チーフ 職員研修	「地域について」「本人中心の支援について」 ・法人理念、ミッションの再確認および共有（法人理念・法人のあゆみ） ・地域に果たす役割、大切にしてきたこと、管理職者との座談会形式で学ぶ。	23名
7	1	非常勤等 職員研修 オンライン	「非常勤等職員研修」 ・幅広い知識の習得 ・他事業所職員との連帯感、法人職員としての所属感を高める。 講師：(NPO)自閉症ピアリンクセンターここねっと 仙台市自閉症相談センター 佐藤 夏希氏 発達障害当事者	70名
中止		(ネクスト) 管理者研修	・人事・労務・経理など、事業所運営に必要な知識および心構えなどを学ぶ。	-
8	24	教育訓練研修	メンタルヘルスケア研修①（入職2年目職員・他） ・メンタルヘルスの基礎的事項、注意点等を学ぶ 講師：日本メンタルヘルスケアサポート協会 代表理事 奥江 裕理氏	8名
中止			メンタルヘルスケア研修②（チーフ職・衛生推進者）	-
4	22		メンタルヘルスケア研修③（管理者） ・メンタルヘルスラインケア講話（オンライン） 講師：産業医安井先生	8名
4	15		ハラスメント防止研修①（新任職員） ・ハラスメント防止に関する方針・相談窓口などの説明、作田弁護士ハラスメント防止基礎講義の視聴（オンライン）	17名
9	30		ハラスメント防止研修②（窓口担当者） ・法人のハラスメント対策とその仕組みを再確認し、「ハラスメント対策の総合情報サイト」動画視聴、相談対応模擬面接、グループワーク実施	17名
11	9		苦情解決研修（3年目職員） ・苦情解決の仕組みや苦情になりやすい対応等について学ぶ 講師：Hearty りい〜す仙台 代表 若山 博美氏	5名
8	3		アンガーマネジメント研修（2年目職員） ・アンガーマネジメントの実際を学ぶ 講師：第一印象研究所 代表 杉浦 永子氏	10名

##### <権利擁護・虐待防止委員会主催 内部研修等>

- 内 部 研 修：「虐待防止とその対応に関するガイドライン」に基づき、権利擁護及び虐待防止に関する職員の意識向上を図ることを目的として、委員会主催の内部研修を実施。セルフチェックシートを用いて自己の支援や感情を振り返り、また他者と成功体験や福祉の仕事のやりがい共有し、肯定感を高めあう機会とした。

(5) 相談支援従事者、サービス管理責任者等研修への職員派遣

- ・相談支援従事者初任者研修 1名
- ・相談支援従事者現任者研修 1名
- ・サービス管理責任者研修 0名

(6) 資格取得奨励助成事業(法人独自)

- ・実績なし

(7) 職員労働環境改善等に向けた取り組み

- ・仕事に関する職員満足度調査の実施（3月/135名より回答）
- ・ハラスメント防止を図るため、相談窓口担当者等への研修実施と外部相談窓口を設置

## 10 その他

(1) 成年後見に関する調査研究等

重いしょうがいのある人にとっての成年後見制度の諸課題や問題点などを明確にし、分析などを重ねながら支援者間で知見を共有するとともに、行政や社会などへの政策提言に繋げられるよう、みずほ福祉助成財団様の「社会福祉助成金」を受け、調査研究を始めました。

なお、本研究等は令和5年度も継続して行う予定です。（事業費 950,000 円中 850,000 円助成）。

(実施状況)

令和4年6月	みずほ福祉助成財団「社会福祉助成金」申請
10月	研究事業検討会議
10月	みずほ福祉助成財団「社会福祉助成金」助成決定
11月	みずほ福祉助成財団「社会福祉助成金」贈呈式
令和5年 1月	成年後見制度に関するアンケートの送付 県内約400事業所

(2) 東北福祉大学との連携協力協定の締結



### Ⅲ 部門・各事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）

#### A 総務部 1. 総務課

##### 【 はじめに 】

新型コロナウイルス感染症による法人経営への影響と昨今の国際情勢の変化や経済・金融市場等の不安定化も重なり、特に財務的には極めて厳しい局面にあります。財務以外にも、職員相互のコミュニケーション機会を活発にし、人と人との繋がりや関係性の構築といったこれまで法人が大事にしてきたことを取り戻すことを年度当初の目標に掲げながらも、長引く感染症への不安を乗り越え、以前のような活動を行うことの難しさを実感した1年でもありました。

そのなかで、法人の基本理念の実現に向けて、総務部として具体的に何ができるのかを関係する職員間で共通認識を深めながら、様々な実践への種まきに努めてきました。財務的な課題解決にはまだまだ検証すべきことが山積していますが、注力すべき課題を明らかにしながら、着実に実になるものへ発展できるよう努めていきます。

##### 【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

- 1 法人経営並びに地域生活支援事業拡充等に伴う資源創出等の検証に関すること ビジョン1
  - 移動支援事業における担い手確保を図るため、ガイドヘルパーの活用を仙台市に働きかけるとともに、先進地の視察を重ねながら、制度上の養成事業開講に向けて取り組みました。
  - 同時に、介護員養成研修事業を継続して実施し、しょうがい福祉に興味関心を寄せる人材の育成に努めました。
  - 重いしょうがいのある人の成年後見制度利用の実態を把握し、制度上の課題を明らかにしながら、親亡き後の諸問題に関する今後の在り方を検証するため、保護者会と協働して宮城県内にある相談支援事業所、生活介護事業所等を対象としたアンケート調査を実施しました。
  - 事業計画上の新規グループホーム開設に向けて、建設候補地に係る情報収集に努めましたが、昨今の物価高騰など社会情勢等の影響もあり、予定地選定に至りませんでした。
  - 優生保護法問題の全面解決を目指す全国集会への賛同、協賛等の是非を提起するとともに、本件に関する職員への情報提供を行い、問題の理解と関心の醸成に努めました。
  - 学生自らが、しょうがいのある人への理解促進と差別のない社会の構築に向けた啓発活動に参画できる機会の創出に努めました。
  
- 2 地域社会や企業等から理解や共感を得るための取り組みに関すること ビジョン2
  - 保護者会や後援会活動と連携し、しょうがい者理解を深め、広く社会からの理解が得られるよう、広報活動や上映会（啓発活動）等に参画しました。
  - 法人が長らく家族支援に携わってきた経験を活かし、しょうがいのある人の兄弟姉妹（きょうだい）やその家族が抱える特有の悩み、諸課題を地域ぐるみで支える体制を構築するため、総務部内でプロジェクト化を図り、具体的実践に向けた協議を始めました。
  - 支援者管理ソフトを有効に活用し、戦略的に寄付や様々な支援が得られるよう、その仕組みづくりに取り組み、ホームページや報告書の作成などを含め、広報にも注力しました。
  - このほか、共生社会の実現と人権擁護の普及啓発等を企業等と連携して行うことの必要性について、法人と縁があり、かつ社会貢献活動に取り組む企業等を広報誌に紹介し、世論を喚起することに努めました。

- 3 法人経営の透明性を高め、社会からの信頼を得る取り組みを行うこと ビジョン3
- 広報誌やホームページを活用し適正な情報開示を行うとともに、しょうがいのある人の地域生活の根幹をなす相談支援事業における実態（抱えている課題を含む）を広く知ってもらうことをテーマに掲げ、広報誌を通してその情報発信に努めました。
  - 支援者への説明責任を果たすため、寄付報告書の作成と情報発信を行いました（再掲）。
  - つどいの家連合保護者会との意見交換の場を持ち、法人の財務状況等の説明に取り組みました。
- 4 経営基盤強化のための財源確保、組織の機能性・効率性を高めるための取り組み等 ビジョン4
- 国の ICT 補助金を活用し、各事業所における業務の効率化を図り、又は事業所間・職員間の横断的な情報共有課題が改善されるよう、様々な機器・ツールを導入し積極的活用につなげました。
  - 東北福祉大学との連携協力協定に繋げ、職員の福祉系国家資格取得と有資格者のキャリア形成を支援する仕組みを再構築しました。
  - 職員の資格取得状況や職歴など、職員人事と育成に必要な諸情報を紙媒体から電子化へ移行し、かつ一元管理できるよう、既存システムの拡張を図り、順次データ移管を進めました。
  - 財務的な課題解決を図るため、特例生活介護事業所(旧 B 型通園事業)の指定廃止と本体生活介護統合を検証、円滑な事業移行（関係者への合意形成を含む）に努めました。
  - ハラスメントのない職場環境を構築するため、法人内部研修を通して基礎的な知識の習得機会を創るとともに、外部相談窓口の設置を含め、相談体制等の仕組みについて周知徹底を図りました。
  - 職員の子育て支援の在り方を検証し、国の制度を有効に活用しながら、同時に育児休業期間中の職員の経済的負担と法人としての財務的な負担の軽減に繋げる措置を講じました。
  - 法人のガバナンス強化と利用者支援の質の向上を図るため、第三者評価の受審について検証し、次年度より試行することを確認しました。
  - 他方で、長期化するコロナ感染対応による利用者数の減少に加え、昨今の物価高騰等による影響もあり、特に法人の財務事情は厳しい局面を迎えています。先般定めた財務改善計画に基づく取り組みを推進し、経営基盤の強化に努めて参ります。
- 5 事務職員個々のスキル向上への取り組み ビジョン5
- 職員個々が受けた研修を自発的に発表する機会を創出し、チームの一員として研修内容を伝えることによって総務部全体の底上げに繋げることに努めました。
  - また、遺贈寄付を含むファンドレイジングに関する基礎知識の習得機会を積極的に持ち、社会への訴求力強化と共感者獲得を体系的に行うためのスキルを理解することに繋げました。
  - 各セクションが計画的に業務を遂行し、かつ横断的にやるべきことを視覚的に共有できるよう環境を整備し、相互理解と協働への働きかけを意識的に行いました。

総務部が担った諸会議の開催事務や広報活動等をはじめ、法人経営に関する様々な取り組みについては、本書冒頭部分（Ⅰ～Ⅱ）を参照されたい。

## B 日中活動支援事業部

### 2 仙台つどいの家 事業報告

#### 【 はじめに 】

引き続き活動や人とのつながりが大きく制限された1年でした。仙台市内の感染状況に応じて、計画を進めていた各種イベントや外出活動は軒並み中止とせざるを得ず、大きなストレスを感じながらの活動となりました。また、施設内でのクラスターの発生により5日間の休館を余儀なくされ、本人・ご家族には大きな負担をおかけすることとなりました。

そんな中でも、webを活用する形で実践発表会『すてーじ』を開催することができ、地域の方や他事業所につどいの家の今を発信できたことは評価できると思います。また、感染状況が落ち着いている時期を利用して、バザーに代わる新たなイベント『つどいの家マルシェ』を開催し、多くの地域のみなさんに来所いただけたことは、利用者・職員ともとても嬉しいことでした。

#### 【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

##### ○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 仙台つどいの家における権利擁護委員会を開催し、職員勉強会を行うなど、権利擁護・虐待防止意識の向上に向けて話し合いを始めることができました。

##### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 通信の発行・回覧により、地域社会・近隣住民のしょうがいのある方への理解促進に継続的に取り組むことができました。
- マルシェの開催により、コロナ禍においても地域住民と交流することができました。

##### ○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 『かけこみ110番の家』を今年度も栢江小学校PTAの要請により継続しました。
- 地域のお宅からの缶回収・地域清掃など、できる範囲で地域貢献に取り組みました。

##### ○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 新規利用者獲得に向けて、支援学校・相談支援事業との連携を深めました（R5年度：3名）。
- 細々とではあるが、物販など仙台つどいの家独自の収益活動を継続して実施できました。

##### ○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 感染防止の観点から積極的な研修派遣ができず、職員の学ぶ機会を十分確保できませんでした。
- ケース会議を通して、利用者一人ひとりを深く知る機会を持つことができました。

#### 【 事業実施状況等 】

##### < 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月1回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
ケース会議	月1・2回	支援計画やケース資料等の確認・検討ほか
チーフ会議	月1回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
その他各種会議・打合せ	必要時	各行事企画運営、通信企画編集ほか

< 内外部研修 >

(内部研修) ・過去の実習・研修報告 ・不適切な支援についての勉強会 ・権利擁護・虐待防止委員会主催内部研修 ・利用者さんとのかかわり方実践研修会 ・障害福祉制度についての研修会 ほか	(外部研修) ・視察研修(千葉:さいわい) ・3事業所(朋・青葉園・愛光園)合同web研修会 ・旧サポート研勉強会 ・医療的ケア3号研修 ほか
---	---

< 行事等 > \*市内のコロナ感染者増により、夏まつりは直前で中止の判断。

名称	開催日	参加者数	目的など
アートウェデュオコンサート	7/6	約90名	地域交流・芸術鑑賞ほか
はたちを祝う会	9/8	約90名	はたちのお祝い
つどいの家マルシェ	10/8	約300名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
すてーじ	12/6	約100名+web30名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
イオン仙台幸町店合同イベント	2/1	約100名	地域交流・地域貢献・啓発ほか

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪者	他施設等利用者及び保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4月	4	0	0	0	14	0	3	0	14	45	21	101
5月	58	0	0	11	17	8	3	0	18	39	8	162
6月	60	0	0	0	17	7	0	22	17	43	36	202
7月	5	0	0	2	17	3	10	10	16	34	24	121
8月	72	0	0	15	20	0	9	0	10	43	10	179
9月	58	0	0	5	6	2	9	6	13	46	11	156
10月	353	0	0	3	15	3	5	8	27	43	28	485
11月	35	0	0	4	21	0	6	0	0	43	14	123
12月	47	0	0	3	8	0	0	0	6	47	10	121
1月	10	0	0	5	13	0	6	1	5	37	31	108
2月	23	0	0	5	24	0	1	0	3	32	18	106
3月	3	0	0	3	16	0	7	0	21	36	16	102
合計	728	0	0	56	188	23	59	47	150	488	227	1,748

< 利用状況等 > 「IV 参考資料」に掲載

### 3 つどいの家・コペル 事業報告

#### 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、思うような活動計画の実施には至りませんでした。芋煮会や遊園地外出など創意工夫をしながら活動展開ができました。行事においては、ミニバザーの開催など、保護者会に協力していただきながら取り組めたことで、保護者との交流が深まりました。地域においては、中学校の職場体験実習や町内会との連携などの交流も少しずつ再開することができました。今後は、コロナ禍前のように地域交流を加速していけるように取り組んでいきたいと思っております。

一昨年度はコペル開設 20 年の節目の年度でした。そのため、内部研修を企画し、コペル開所当時の施設長兼理事長であった下郡山徹一氏にご講演していただき、コペルの歴史や地域の成り立ちなどお聴きする機会をいただきました。今ではコペル職員のほとんどが当時の様子が分からなく、貴重なお話を伺うことができました。今回の研修会を通じて、利用者と一緒に地域探検しながら、しょうがい理解を深めていきたいと思っております。

感染対策に限らず、地震や火災、水害対策の防災対策の強化が必要です。特に、水害対策については、想定できない事態に巻き込まれるかもしれません。利用者・職員の命を守ることを念頭に、水のうや土のうを準備する手順や公用車で慌てずに利用者と共に避難する訓練を繰り返しながら、緊急時に備えていきたいと思っております。

今年度より各事業所において、権利擁護・虐待防止委員会実施が実施されています。コペルの権利擁護・虐待防止委員会においても、ヒヤリハットの検証やビデオ撮影による活動の振り返りなど、利用者支援を客観的に振り返ることで、自分自身の支援に対する見直しができるように感じますが、まだまだしょうがい理解を深めるために、個々のスキルに頼りすぎている部分が否めないため、先進地域への視察研修や他事業の見学など各職員へ研修の場を通じて、スキルアップにつなげていきたいと考えています。

#### 【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

##### ○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- コペル権利擁護・虐待防止委員会を開催。ヒヤリハットやコペル内の支援に関することについて振り返り、各グループで検証するように取り組みました。また、内部研修の企画では、ビデオ映像を通して事例検討を行ない、支援の改善を図りました。
- 障害者週間に七十七銀行と「観て！魅て！アート展」を企画しておりましたが、先方のご都合で、実行までには至りませんでした。

##### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 「東北福祉大学内講義でのゲストスピーカー実施」「沖野市民センター祭り」については、感染対策を講じながら実施いたしました。沖野市民センター祭りについては、2 日目に感染者がなかったために、1 日のみの参加となりました。
- 南側広場については、町内会・保育園・仙台市・コペルと意見交換の場を持ちながら話し合いを行ない、一部砂利を敷き詰めるなど、整備に繋げることができました。
- 保育園の保護者懇談会の場として、ポランの広場の借用願いがありましたが、感染対策のために見送りました。今後は、地域の貸館としても有効に活用してほしいと思っております。
- 公益的な取り組みの一環として、事業所敷地内にフードボックスを設置しました。提供いた

いた食品をフードバンク仙台へ届ける活動を始め、食品の量も増え、利用者とともに活動の一環として取り組みました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 小規模法人のネットワーク化による協働推進事業に参画し、若林区内の社会福祉法人と課題を共有すると共に、具体的な取り組みとしてWebにて研修会を実施しました。今年度も引き続き中間的就労への取り組み、今後は若林区における防災ネットワークの構築に向けた取り組みを話し合っていきます。
- 11月、駐車場敷地内に長ブロックが割られ、散乱していましたがありました。六郷交番・町内会との連携で、地域の防犯強化の必要性を話し合いました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 10月より看護師体制加算(Ⅲ)取得。看護師配置3名。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- コペル内部研修を開催しました。権利擁護・虐待防止にかかわる研修及び感染症対策に関する研修を実施いたしました。
- 今後、介護福祉士の実習生を受け入れるため、介護福祉士実習指導者講習会を受講し、実習生の受入れを始めていきます。

○ その他の活動

- 保護者会として、地域の農家と連携し、野菜販売やのり販売に取り組みました。
- 衛生委員会を毎月開催し、産業医のアドバイスを参考に、環境改善に取り組みました。
- 衛生委員会にて、環境の改善、腰痛対策の実施、暑さ指数の共有、感染症予防など労働安全衛生に関する具体的な取り組みを行ないました。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
職員会議	月1回	事業所運営の方向性、日程確認、情報共有、意見交換など
ケース会議 (フロア・グループ)	月1~2回	個別支援計画の具体案検討・見直し・検討、利用者や家族の状況共有、研修会の実施など
チーフ会議	月1回+臨時	事業所運営の意思決定、事業報告、課題検討など *夕方開催をしていますが、子育て中の職員もいるため、午前中の時間帯に時間を決めて、会議を実施。利用者の受け入れ態勢などに課題はあるが、年間通じて取り組むことができた。
グループ会議	月1回	各会議・事業報告、共通課題検討、意見交換など
衛生委員会	月1回	労働環境の改善、産業医のアドバイスなど *コペル衛生員会メンバーで担当を決めて、会を進行した。

< 内外部研修 >

<p><b>内部研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コペル内部研修</li> <li>・外部出前講座（転倒・腰痛）</li> <li>・法人新任研修</li> <li>・法人職員研修（選択研修）</li> </ul> <p><b>外部研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生責任者講習会</li> <li>・安全衛生推進者養成講習</li> <li>・ストレスチェック実施養成研修</li> <li>・災害にも福祉を守る（web）</li> <li>・メディカルアロマリンパアプローチ</li> <li>・第45回てんかん基礎講座（web）</li> <li>・全国知的障害関係施設長等会議（東京）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やる気を引き出す介護リーダーのための声かけ</li> <li>・東北地区知的障害協会専門研修（web）</li> <li>・介護福祉士養成施設実習指導者研修会</li> <li>・LITALICO 発達ナビ</li> <li>・令和4年度看護研修会（web）</li> <li>・強度行動支援者養成研修（基礎・実践）</li> <li>・安全運転管理者講習会</li> <li>・経営サポート事業</li> <li>・仙団協視察研修会（津久井やまゆり園）</li> <li>・3施設合同研修会（web）</li> <li>・医療的ケア児等コーディネーター養成研修（web）</li> <li>・障害者施設における障害者虐待防止と対応の基本（web）</li> <li>・東北フォーラム 2022INふくしま（web）</li> <li>・日本知的障害者福祉協会 権利擁護委員会（東京）など</li> </ul>
--	---

\*少しずつではあるが、県外への研修を実施することができました。

< 行事等 >

夏祭り 上飯田町内会の夏祭りが中止のため、コペル内で夏祭りを実施。飲食を伴わない出店を準備し、利用者・保護者と一緒に楽しむことができました。

沖野市民センター祭り 1日目、販売・絵画出展 2日目 絵画出展のみ

2日目は、感染者が急増したため、絵画出展のみとし販売会を中止としました。

コペルでバザ〜る（ミニ）開催 上飯田町内会集会場を会場に午前のみ開催しております。

< 見学・来訪者一覧 >

(R4. 4. 1~R5. 3. 31)

	一般来訪	他施設等利用者及び保護者	他施設等職員	一般見学者	ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	他事業所職員 法人内	合計
4月	51	0	5	1	0	0	0	0	2	7	60	126
5月	12	1	0	1	0	0	0	11	5	15	72	117
6月	49	13	31	0	0	0	0	18	6	21	96	234
7月	20	3	10	1	0	0	2	0	10	12	93	151
8月	23	10	15	2	1	0	0	9	6	18	47	131
9月	21	16	3	2	0	0	0	0	4	16	56	118
10月	13	2	19	10	0	0	6	4	2	26	60	142
11月	16	16	2	5	0	0	2	7	3	23	90	164
12月	14	1	1	2	0	0	0	6	4	15	57	100
1月	8	4	1	1	1	2	0	0	3	18	93	131
2月	10	10	2	2	2	0	0	1	4	17	92	140
3月	42	6	5	4	2	0	7	0	7	20	109	202
合計	279	82	94	31	6	2	17	56	56	208	925	1756

## 4 つどいの家・アプリ 事業報告

### 【はじめに】

令和4年度は、入院加療中だった利用者1名が逝去されただけでなく、年度途中で体調を崩し療養中の方もおり、いつも当たり前かかっていた方の不在という存在の重さを感じる日々でした。そのような中で、10周年記念で作成したつどいの家・アプリの歌「みんなのアプリ」のお披露目会を実施できたことや、3年ぶりに山田市民センターまつりに参加したことは、地域とのつながりを実感できる明るいできごとだったと思います。

利用者支援では、新型コロナウイルス感染対策のため通所控えを続けている利用者とのオンライン活動や、宮城教育大学の教員から研修を受けて視線入力機器を使った活動を開始しました。また、自閉症のある利用者への支援を学ぶためにアスム療育センターの短期集中研修や、のぞみ苑の見学も行いました。年度末近くになりましたが、職員からの希望が多かった地域の他事業所へ見学に行く機会を設けられたことは、令和5年度の支援にむけた弾みになりました。

人材育成では、新卒職員を迎えましたが、従来通りのOJT中心では育成が進まない状況がみられたため、チーフ職員を講師として内部研修（FKSL会）を実施しました。新しい職員にむけた取組でしたが、講師役となったチーフ職員にも「どう伝えるか」を考える機会となりました。内部研修の効果は、目に見えてすぐにわかるものではありませんが、今後も職員間でも学び合いを継続できればと考えています。

職員数が増えたことにより、慢性的な人手不足は改善され、勤務時間内に事務時間や休憩はとりやすくなりました。その分、職員間の情報共有の難しさや、利用者と過ごす時間について考え方の違い等、新たな課題もみえてきました。質の高い支援と働きやすい職場環境の両立にむけて、これからも職員とともに考えていきたいと思っています。

### 【経営ビジョンに基づいた今年度の取り組みと評価】

#### ○ 権利擁護推進のに向けた取り組み

経営ビジョン1

- 本人主体・意思決定支援を重要視して取り組む（職員の支援力向上）
- 内部研修の開催、掲示物の活用

#### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 地域における公益的取り組み（中学校出前講座・貸出事業など）
- 宮城教育大学ゲストスピーカー（web講習会）

#### ○ 地域社会等からの信頼構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 地域行事への参画（山田市民センターまつり出店）
- アプリ10周年企画（「みんなのアプリ」歌のお披露目・河北新報掲載）

#### ○ 経営基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 利用者の出席率維持と通所日数の確保

- ・年度当初に利用者1名が逝去され、また11月～入院加療のため利用者1名が長期欠席されている。入所施設で暮らしている利用者1名は、新型コロナウイルス感染対策のため令和3年に続き4年度も欠席されている。
- ・利用者の出席率維持の対策として、通所日を予定の250日より3日増やして253日とした。また、新型コロナウイルス感染対策により休んだ利用者へ相談支援等を行うことで通所扱いとしてきたが、家事都合や体調不良で欠席する利用者もおり、出席率は今年度目標に比べて減少となった。



○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 自閉症研修の開催（コンサルテーション）
- 感染症対策（感染対策講習会(嘔吐物処理・防護服の着用)、物品の整理、環境整備等)

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
労働環境	衛生委員会の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整理整頓 (作業効率の向上・労働災害の防止)</li> <li>・ 労働と疲労 (健康管理チェック・労働時間の改善)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物品の整理</li> <li>・ 不用品の廃棄</li> <li>・ 腰痛体操、ラジオ体操の呼びかけ</li> <li>・ 派遣社員の活用</li> </ul>

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	毎月	各項目に分かれて、協議確認
グループ会議	隔月	ケースワークや諸課題の整理
チーフ会議	毎月	事業所内の検討課題について協議
ケース会議	毎月	利用者のケースワーク、研修会の開催等
全体懇談会	年8回	事業所の課題、保護者会との取り組みなど *新型コロナウイルス感染症対策のため、4月7月11月3月に2回ずつ同じ内容行った。

< 内外部研修 >

<b>内部研修</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災備蓄品確認</li> <li>・ 消防部分訓練</li> <li>・ 嘔吐物処理訓練、防護服着用訓練</li> <li>・ 安全運転研修</li> <li>・ FKSL 会</li> </ul>	<b>外部研修</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉施設長資格認定講座</li> <li>・ 社会福祉士実習指導者講習 WEB</li> <li>・ てんかん基礎講座 WEB</li> <li>・ 安全運転管理者講習</li> <li>・ アスム療育センター自閉症研修</li> <li>・ 支援スタッフ部会東北フォーラム WEB</li> <li>・ 強度行動障害研修(基礎、実践)</li> <li>・ アーチル発達障害成人講座</li> <li>・ 全国知的障害関係施設長等会議 WEB</li> <li>・ 全国知的障害福祉関係職員研究大会 WEB</li> <li>・ 社会福祉法人みずきの郷 のぞみ苑 見学</li> </ul>
--	---

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
10周年記念「みんなアプリ」を歌う会	7月8日	30名程度	記念の歌のお披露目会
山田市民センターまつり	10月30日	地域住民	地域交流・作業品販売
宮城教育大学ゲストスピーカーWEB	12月20日	110名程度	障がい理解を進める活動。
人来田中学校 福祉講座	12月12日	80名程度	福祉について理解を深める活動。
二十歳を祝う会	1月23日	30名程度	二十歳のお祝い(2名)

< 渉外・他 >

4/3	山田町内会総会 (あいさつ)	11/29	ありのまま舎 (担当国会議)
4/14	国見はげみホーム(記念誌のお届け)	3/17	ないとうクリニック (あいさつ)
4/20	ないとうクリニック (あいさつ)		なごやかネット
6/17	ありのまま舎 (あいさつ・担当国会議)	随時	支援スタッフ部会
6/22	わらしべ舎羽黒台工房 (あいさつ)		
9/21	FMたいはく(後援会上映会番宣収録)		

見学者・来訪者一覧)

(令和 4. 4. 1～令和 5. 3. 31)

	一般来訪者	他事業所等利用者及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4月	6	0	0	6	0	0	0	0	3	3	23	35
5月	4	0	3	0	0	0	0	0	3	5	22	39
6月	13	0	6	7	2	3	0	0	8	8	44	82
7月	3	0	2	0	2	5	0	2	2	2	23	51
8月	6	0	2	1	0	3	0	0	2	3	20	34
9月	0	0	0	4	0	2	0	2	2	6	18	40
10月	1	0	0	7	0	0	0	0	5	4	21	37
11月	0	0	0	5	0	0	0	0	4	7	13	30
12月	0	0	0	8	0	0	0	4	2	7	20	41
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	12	18
2月	1	0	0	4	3	0	0	3	4	1	9	25
3月	4	0	0	0	1	0	0	0	3	6	11	25
合計	38	0	13	42	8	13	0	11	41	55	236	457

## 5 八木山つどいの家 事業報告

### ○ はじめに

平成28年10月生活介護へと移行して6年が経過しました。昨年度は新型コロナウイルスの影響が大きく、11月には事業所内でも感染が広がりました。その後、感染者は発生しましたが、拡大することなく活動を展開することができました。アフターコロナに向けて、社会全体が動き出した年でもありました。八木山では、個別支援の一環でマラソン大会に参加したり、バザーを開催するなど感染対策を行いつつ、以前の地域交流を目的とした活動を行うことができました。11月には新成人を祝う会を開催。来賓を招くことはできませんでしたが、祖父母にもご参加頂きました。利用者については、新型コロナウイルスによる通所控えをする方も少なく、安定した通所ができた方が増えましたが、ご利用者によっては大きな怪我を負い、車椅子での生活を余儀なくされた方や環境や支援方針の課題により入院・長期で欠席する方もおりました。改めて環境整備、支援方針の共有の大切さを知った一年でもありました。昨年度は、保護者会の動きも活発となり、事業所の劣化したロッカーを寄贈して頂いたり、喫茶店を利用して保護者会主催のクリスマスマーケット（ミニバザー）を開催しました。ゲストスピーカーの取組みについては4年目となりました。東北工業大学に加え、尚絅学院大学では2回に分けて開催し、参加した学生からは続けて欲しいというご意見を頂きました。

喫茶についても6年が経過。新型コロナウイルスの影響により、店休することも増えましたが八木山地域に根付いたブドウの木のように、人を惹きつける魅力あるお店を目指し展開してきました。しかし、経営的な課題やコロナウイルス、今所属している利用者の方々の環境を考慮し、苦渋の決断ではありましたが閉店することになりました。閉店後は、すぐに活動スペースへ転換を行いました。次年度は、新規利用者受入に向け準備を進めてまいります。

### 【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

#### ○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- ゲストスピーカーとして役割を果たしつつ、しょうがい理解・人材確保の観点も含め取り組みました。

（東北工業大学、尚絅学院大学、近隣の小中学校、ハンズせんだい等）

- 八木山権利擁護委員会で、日々の具体的な事例を基に利用者への権利擁護の意識を深めました。

#### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 八木山地区のふれあい場として喫茶を展開しつつ、地域住民と利用者の交流を推進しました。
- 地域行事への参加を通して、つどいの家が地域の中で求められている街づくりの役割を果たしました。
- こども食堂等の地域活動を推進し、地域啓発に取り組みました。（開催場所の提供等）

#### ○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 八木山防災連絡会参画、地区班長の役割を担い地域へ貢献しました。
- 駅前ガーデン整備、活動内での地域清掃等を行い、地域との更なる繋がりを構築しました。

#### ○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 利用者の状態像を正しく捉え支援を行いました。（重度障害者支援、区分調査等）
- 利用者一人一人に丁寧に寄り添い、安定した出席率を維持する取り組みを行いました。
- 新たな発想で環境整備を行い、更なる利用者登録受け入れを模索しました。

#### ○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- WEB環境を整備し、外部研修への参加する機会を増やしました。（WEB研修・eラーニング活用）
- 福祉協会等の外部研修（WEB研修・参集研修）を活用し、他事業所への見学・実習の機会を増やし、より丁寧な支援に繋がられるようにしました。
- 支援スタッフ部会（宮知協）、レクレーション教室担当など、法人外の団体の繋がりから広く経験を得るため、積極的に参加しました。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的取り組み	実績と結果
個別支援計画の促進	意思確認や意思決定支援を丁寧に行いません。 本人の思いや希望を受け止めるため、ケース会議等で情報共有を行い実際の支援に反映します。	コロナ禍の為、計画していた個別支援が達成できないところもありましたが、次年度に引継ぎ継続します。
家族との連携	将来の生活を話し合う機会（情報提供等）や、施設懇談会や行事へ家族（特に父親）参加を促します。 また、利用者面談（年2回）を行います。	コロナ感染者増加に伴い、施設懇談会を中止した月もありました。
(3) 健康維持	看護師、嘱託医、主治医との連携を行います。また、利用者の通院同行、GHとの情報交換を行います。 食事提供（アプリ・ふたばの会）の連絡調整と、食事提供の在り方を検討します。	嘱託医と連携を取り、コロナワクチン接種やインフルエンザワクチンの確保など協力して行う事ができました。
(4) 作業品開発・アート作品商品化、アート化推進	喫茶室で写真展を開催します。 IPAD 等を使ったデジタルアートへの取り組みを行います。	・写真クラブを通して撮影した写真を喫茶に掲示しました。
(5) はたらくの支援	利用者が取り組む事のできる作業を通して「はたらく」事への意欲を高めます。	・地域へのしょうがい理解を広げ、利用者が役割を持つことで社会生活への自信になりました。 はたらく権利と義務について考える機会になりました。
(6) ボランティアの協力	大学の学生や地域住民の活動ボランティアを募集します。	・コロナ禍の為、ボランティアの募集を積極的に行うことができませんでした。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
チーフ会議	年5回	予定確認、グループ特記、行事進捗、ケース会議議題検討、内部研修テーマ検討、他
月案調整会議	月1回	活動場所調整、支援体制調整、配車、食数確認、他
八木山衛生委員会	年4回	環境整備、感染症対策、職員勤務環境、他
新八木山プロジェクト	年6回	喫茶閉店に向けた段取り、移行後の配置、
活動連携会議	月1回	活動調整、休憩時間の模索、
職員会議	月1回	予定確認、会議・委員会報告、行事確認、検証、内部研修、他 ※今年度より全職員参加に形式を変更
ケース会議	月1～2回	個別支援計画、ケース特記、ケース記録まとめ、事例検討、他
喫茶連絡会	月1回	情報共有、喫茶・厨房・事務の連携、イベント検討、季節メニュー検討、他

< 内外部研修 >

<ul style="list-style-type: none"> <li>・強度行動障害支援者研修（基礎・実践）</li> <li>・東北フォーラム in 福島 WEB参加</li> <li>・全国知的障害者関係施設長研修</li> <li>・県社協「サービス管理責任者等実践研修」ファシリテーター</li> <li>・アンガーマネジメント研修（一般・指導）</li> <li>・特定非営利活動法人ワンファミリー主催研修会</li> <li>・アーチル発達障害成人期講座（生活介護編）</li> <li>・いいね仙台「性支援」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部研修「権利擁護」講師：法人内職員</li> <li>・宮城県知的障害者福祉協会主催「施設長研修」</li> <li>・県社協「サービス管理責任者等基礎研修」ファシリテーター</li> <li>・三事業所合同研修会</li> <li>・支援スタッフ部会研修会</li> <li>・アーチル療育セミナー</li> <li>・仙台市「集団指導」WEB参加</li> </ul>
--	---

< 行事等 >

名称	開催日 (頻度)	参加者数	目的など
八木山つどいの家バザー	年1回	50名程度	地域交流、保護者会との連携、収益等
イエローシートキャンペーン	年0回	0名	イオン来店者との交流 コロナ禍の為、中止
一丁目公園祭り	年0回	0名	町内会との交流、児童との交流 コロナ禍の為、中止
八木中祭	年0回	0名	中学生との交流、学校との連携 コロナ禍の為、学校内の発表会となる。
八木山市民センターまつり	年0回	0名	アート作品の展示、展示説明 コロナ禍の為、中止
八木山フェスタ	年1回	0名	参加のみ。
喫茶コンサート	年0回	0名	地域交流、演奏家の発表の場 コロナ禍の為、中止
手つ学カフェ	年0回	0名	地域交流、地域課題の共有 コロナ禍の為、中止
イオンサンタ訪問	年1回	2名	地域交流、季節行事

< 渉外・他 > ※地域や法人行事等は含まず。

4月29日	八木山第一町内会定期総会	10月24日	尚綱学院大学ゲストスピーカー②
5月14日	八木山防災連絡会総会参加	12月13日	東北工業大学ゲストスピーカー
7月7日	尚綱学院大学ゲストスピーカー①		イオンサンタ来所
8月26日	岡本あき子衆議院議員と懇談	12月14日	秋保かがやき支援学校説明会

< 見学・訪問者一覧 >

来 訪 者										
実施月	見 学 者	実 習 者	一般来訪	利用・家族	業者関係	関係機関	地域関係	法人内	寄付・寄贈	小 計
4月	1	0	17	6	1	1	1	4	0	31
5月	0	0	16	1	4	3	1	5	0	30
6月	0	2	23	9	4	13	2	6	1	60
7月	0	0	47	2	3	9	0	2	0	63
8月	3	6	24	8	1	8	1	1	0	52
9月	2	4	17	7	0	9	3	3	0	45
10月	2	2	34	18	1	14	0	2	0	73
11月	0	0	22	17	0	5	1	0	0	45
12月	3	0	31	7	1	7	0	9	0	58
1月	2	1	4	4	0	5	0	1	0	17
2月	0	0	0	12	0	5	1	2	0	20
3月	0	1	1	15	0	1	0	8	0	26
合計	13	16	236	106	15	80	10	43	1	520

※見学欄に面接者含む。寄付寄贈に飲食物は含まず。利用者と一般、見学、実習以外は要件でカウントしている。

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

## 6 若林障害者福祉センター(生活介護事業) 事業報告

### 【はじめに】

令和4年度、仙台市における障害者福祉センターの制度改変があり、これまで生活介護事業と自立訓練(生活訓練事業)の2事業を担ってきましたが、生活介護事業のみの運営となりました。1事業となりましたが、これまでと変わることなくセンター内の他法人と協力しながら事業を実施しております。

利用者支援においては、年度途中、新たに1名の利用者を迎え、短期間の間に併用できる生活介護事業所につながることができました。これは、障害者福祉センターの“地域移行支援”が体現化できたものでしたが、それは私たち一事業所だけでは成しえることはできず、複数の関係機関が一体となったことで、一人の利用者の日中の過ごし場の場を拡充することができました。

活動においては、継続して実施している創作活動にて、公益財団法人東北障がい者芸術支援機構が開催している「Art To You! 東北障がい者芸術全国公募展」にて受賞しました。これは正に利用者の力で得たものですが、コロナ禍の制約がある中で活動を進めている職員にとり、受賞の喜びはひとしおでした。

感染対策を講じながらの活動も3年目を迎え、職員各自の衛生観念が高まりましたが、感染予防のために長期欠席が続く利用者の社会との関わりを持つ役割を、事業所として十分に果たせなかったことは悔いが残ります。これからもより良い社会参加のあり方を利用者・家族と共同で考えてまいります。

### 【経営ビジョン実現に向けた取り組みと評価】

- 権利擁護推進に向けた取り組み 経営ビジョン1
  - 権利擁護委員会を実施し、利用者の支援について意見を交わす事で、職員の意識が向上しました。
- 地域交流・地域支援活動等の取り組み 経営ビジョン2
  - コロナ禍において、不特定多数の人を呼び集める交流の場を開催にするに至りませんでした。インターネットを活用し、交流の場を設けました。
- 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み 経営ビジョン3
  - 仙台市の取り組みである食品ロスを軽減するフードドライブに参加したことで、地域社会の一員として活躍しています。
- 財政基盤を確立させるための取り組み 経営ビジョン4
  - 後援会員や募金箱設置の拡大には至りませんでした。これからも利用者と共に後援会活動に取り組みます。
- 人材育成及び研修等への取り組み 経営ビジョン5
  - 一緒に支援している他法人看護師と共に、医療的ケアの基本を学び、普段の支援に活かす事ができました。

### 【その他重点的な取り組みと成果等】

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等
ケアマネジメントの視点を常に意識した支援の実施	個々のしょうがい特性や家族の状況に則した支援を実施するために、丁寧な情報収集と課題を把握する。	利用者本人を取り巻く情報をより深く得たこと更にそれを関係機関と共有することで、ひとつの視点に寄らず多角的に利用者に向き合うことができました。
健康を意識した取り組み	1. 感染症等の正しい知識を得、衛生管理を学ぶ。	感染対策を学んだことで、衛生管理の意識を持って、事業所を起点とした感染者はあり

	2. 労働環境を整える。	ませんでした。
創造力の新しい発表の形を考える。	これまでに囚われない形式で表現の発表の場を設定する。	公募展に応募し作品を発表したことで、利用者の更なる創造力の醸成と、職員の励みとなった。

## 【 事業実施状況等 】

### < 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
支援会議	1回/月	個別支援計画立案・実施・検討、各ケースの把握など *仙台市障害者福祉協会看護師参加
職員会議	1回/月	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
月案会議	1回/月	活動の計画、体制調整、車輛使用予定確認など
センター運営会議	1回/月	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	1回/月	センター機関誌編集発行、センターまつり企画運営など
センター研修委員会	1回/月	センター内部研修企画・実施など
看護師連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と利用者の健康についての確認や情報交換など
送迎連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と送迎調整、課題検討など
入浴連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と入浴調整、課題検討など

### < 内外部研修 >

(内部)	(外部)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手指衛生</li> <li>・緊急通報訓練</li> <li>・エンカウンター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練</li> <li>・上級救命講習</li> <li>・他事業を知る</li> <li>・どこから始める？SDGs</li> <li>・障害者スポーツボランティアネットワーク研修会</li> <li>・医療的ケア児等支援者養成講座</li> <li>・仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修</li> <li>・アーチル発達障害成人期講座</li> </ul>

### < 行事等 >

- ・新成人を祝う会 (2月8日)

### < 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

## C 地域生活支援事業部

### 7 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」事業報告

#### 【はじめに】

前半は新型コロナウイルス感染症によるキャンセルや利用控えがあり、思うような事業運営ができませんでしたが、後半からは利用予約も徐々に増え、数年ぶりに「ホームヘルプサービス事業」や「日中一時支援・短期入所事業」をご利用された方もいらっしゃいました。移動支援においては外出先の範囲をほぼコロナ禍前に戻し、以前の自由で楽しい外出を少し取り戻せたように感じています。

各補助金を活用してエコキュートの買い替え、入浴リフトの設置、リモート会議で使用するパソコンの購入など環境面を整え、利用者の方々が安心して過ごせる空間と職員の労働環境の整備を図りました。

行事関係も11月には事業所近くにある3丁目公園の落ち葉拾いを行ない、町内からも参加いただき交流の機会を作ることができました。

人材確保や財務改善に向けた大きな取り組みとして、外出支援の担い手となるガイドヘルパーの養成講座の開講を目指して準備を進め、目標としていた年度内の事業指定手続きに間に合うことができました。しょうがいのある方の外出ニーズは高く、余暇の充実の他に社会参加の機会になり、地域に出向くことでしょうがいのある方に対する理解の促進が期待されます。また、学生や若い世代にもしょうがいのある方が置かれている現状を知ってもらい、周囲への理解を広めていく役割も担って欲しいと思い、大学などの学校を中心にガイドヘルパー養成講座の広報活動を今後、精力的に行っていく予定です。

#### 【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

##### ○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 毎月の事業所内の権利擁護委員会では、職員同士の会話や個人情報を取り扱う場面において、人権に触れるようなことがなかったかなど、直接的な支援以外について振り返る機会を作りました。
- 内部研修では、各職員たちが支援において大事にしていること、大切にすべきことについて意見交換を行ないました。

##### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 事業所通信では、写真などを多く取り入れ、視覚にも分かりやすいよう工夫しました。
- すてっぷ・サロンの貸館において、固定の団体からの定期利用があった一方、年間の利用件数は15回という状況でしたので、もう少し地域住民の方に有効活用してもらえよう周知活動に工夫が必要と感じました。

##### ○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 初夏には事業所周辺の清掃活動、秋には公園の落ち葉拾いを行ない、事業所のPR活動および町内の方と一緒に取り組む企画を実施しました。
- 南光台地域包括圏域会議に参加し、南光台地区の住民との交流を図りました。

##### ○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- ニーズの高い外出支援の担い手を増やし、増収に繋がるようガイドヘルパー養成講座の検討を進め、令和5年6月から開講する段階に至りました。
- 事務棟の改築プロジェクトを立ち上げ、話し合いを行ないました。新たな収益事業の展開だけでなく、事業それぞれが抱える経営課題の解決となるよう総合的な視点で改築の検討を進める必要があるとの見解を出すことができました。



## ○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

- コロナ感染症の流行時期には中止にした時もありましたが、可能な範囲でヘルパー連絡会を実施し、意見交換や情報共有の機会を作りました。介護人連絡会でも「しょうがいについて」「権利擁護について」など学びの機会にもなるよう工夫しました。
- 内部研修を3回実施し、「防犯対策」では外部講師を招いて専門的な話を聞くことができました。

## ○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
労働環境の整備	支援体制の調整に予約システムを導入し効率化を図る。 貸与スマホで複数人と情報共有できる情報管理の仕組みを検討する。 介護ロボット試用貸出等を活用し導入を検討する。	G o o g l eなどのインターネットを活用した情報共有ツールを事業所内でも、少しですが活用することができました。 入浴用リフトを設置し、利用者や支援者の負担軽減を図りました。
人材確保	効果的な求人方法について登録ヘルパーや介護人と共に検討する機会を持つ。 入職手続きを効率的に進められるよう手続きの流れを整理する。	学生などの若い世代でも受講しやすいガイドヘルパー養成講座の準備を行ない、令和5年6月より開講に至りました。
リスク管理	個人情報管理のルールを整備する。 安全委員会に看護師の参加。 不審者対応訓練を実施する。	内部研修として行方不明時の事業所の対応についてマニュアルに沿いながら実際にシミュレーションしました。 安全委員会において、看護師から助言をもらう機会の実現に至らなかった為、次年度も引き続き計画していきます。
公用車管理 安全運転	チェックシートをもとに運行前点検の励行。 車両の安全運転講習会を実施する。	冬道運転について送迎対応をする介護人と確認をする研修を設けました。 各職員が運行前点検の実施を意識するようになり、以前に比べるとだいぶ習慣化されました。
職場内コミュニケーションの活性化	面談を定期的実施する。 内部研修を通し、意見交換する場を増やす。	新任職員が入職し、周囲の職員たちが自然にフォローしたり、素朴な疑問や質問に初心を思い出したりと想定以上に良好で活発なコミュニケーションの場面ができていました。
地域貢献	春：南光台清掃ウォーキング 夏：南光川清掃 秋：三丁目公園落葉清掃 事業所通信に記事を掲載する	南光台清掃ウォーキング、三丁目公園落ち葉清掃を実施することができました。 南光川清掃は日程が合わず、参加できませんでした。

## 【 事業実施状況等 】

## &lt; 諸会議 &gt;

会議名	開催頻度	内 容
チーフ会議	月1回	構成員：管理者・事務員・各事業チーフが参加 内容：各事業の現状共有・課題検討等
職員会議	月1回	構成員：全職員（※登録ヘルパー・介護人除く） 内容：会議・委員会の報告、法人の動向の共有・ぴぽっと南光台の課題検討、ヒヤリハット共有等
ぺんたす会議	月1回	構成員：ぺんたす職員（※登録ヘルパー除く）、管理者 内容：事業の課題検討・支援上の情報共有等

すてっぷ会議	月1回	構成員：すてっぷ・はうす職員（介護人除く）、地域支援部長、管理者、副管理者、事務員 内容：事業の課題検討・支援上の情報共有等
すてっぷ勤務調整会議	月1回	構成員：すてっぷはうすチーフ、地域支援部長、管理者、副管理者 内容：翌月の利用調整、他事業へのフォロー要請判断等
サビ責ミーティング	月1回	構成員：サービス提供責任者 内容：業務の連絡調整、事業内の人材育成・支援向上に向けた取り組み、ヘルパー連絡会の確認事項等
安全委員会	月1回	構成員：サービス提供責任者、医療的ケア実施職員、管理者、看護師 内容：医療的ケアを実施している利用者の状況共有等
ガイドヘルパー検討会	月1回程度	構成員：法人本部、部長、管理者、サービス提供責任者、総務 内容ガイドヘルパー養成講座の開講に向けた準備。

< 地域交流室 >

すてっぷサロン	コロナ感染症対策により、半日使用、食事なしの制限を継続しながらも、近隣団体や地域への貸館を継続しました。
---------	--

< 内部研修 >

権利擁護・虐待防止研修  
防犯対策（講師：アルソック）  
行方不明対応

< 外部研修 >

ボランティアコーディネーター研修  
衛生推進者養成講座  
福祉有償運送運転者講習  
ガイドヘルパー視察（11月東京都・社会福祉法人樫の木会、NPO法人だれもがともに小平ネットワーク 2月大阪府・NPO法人みらいず2）  
仙団協福祉フォーラム  
仙団協福祉講座「強度行動障害のある人を地域で支えるには」  
Twitterセミナー

<利用状況等> 「Ⅳ 参考資料」に掲載

## 8. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」 事業報告

### 【実施事業】

- (1) 仙台市障害者相談支援事業・仙台市障害児等療育支援事業  
指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業『とびら』
- (2) 日中一時支援事業・短期入所事業『だいち』

#### ○ はじめに

9月からぴぼっと支倉全体（保育所隣接）の大規模改修工事を予定していましたが、延期となりました。そのため改修工事の時期は未定となっています。次年度内には工事が見込まれますので「とびら」「だいち」「すてっぷ・はうす」（ぴぼっと南光台）で連携しながら、引越準備を進めていきたいと思えます。

相談支援事業「とびら」では、コロナ禍のためできる限り訪問時間の短縮や対面を減らし、電話やメール等で対応することを心がけました。今年度はピボット若林「くれよん」と連携し、新任職員を対象とした座談会の実施、相談事業としてのリスクの洗い出しと対応の検討を行いました。宮城県のICT補助金を活用し、プロジェクター用スクリーン、パソコンを購入しました。年度後半、退職に伴い管理者が代わるという不測の事態がありましたが、ぴぼっと支倉職員が一体となり、諸課題に対し取り組みました。

#### ○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- とびらミーティング等で情報共有を図りましたが、検討会を実施するまでには至りませんでした。次年度は事業所内権利擁護・虐待防止委員会において、定期的に現場における対応等について意見交換をする機会を設けたいと思えます。

#### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 隣接する保育所、高齢系事業所、地域包括支援センターと情報交換を図る機会を設けました。
- 「支倉通信」を年2回発行し、情報発信に努めました。

#### ○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- コロナ禍のため、地域行事等は中止となり、地域交流の機会はありませんでした。
- 改修工事が延期となったため、地域包括支援センター職員から地域づくりについて学ぶ機会をつくることはできませんでした。
- 毎月区自立支援協議会に相談員が参加し、関係機関との情報共有等を図りました。

#### ○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 改修工事期間の移転費用について仙台市と協議を重ねました。改修工事が延期となったため、補助金等の活用はありませんでした。
- 相談支援事業では、法人内相談支援事業検討会においてあらためて各種加算について学習する機会を設けました。

#### ○ 人材育成及び（事業所内）内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 個人情報保護に関する研修の実施には至りませんでした。今後も仙台市の「個人情報の取扱いに関して」「相談業務における留意点」等を踏まえながら、取り組みたいと思えます。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
労働環境の整備	支援体制の調整に予約システムを導入し、利用調整の効率化を図る。情報機器を活用した相談業務を整備する。	予約システムについては「すてっぷ・はうす」とともに検討し、今後 Google フォームを活用予定。昨年度「とびら」でモバイルパソコンを購入し、今年度も継続して活用しました。
人材確保	福祉に関心のある中高年、学生サークルへの介護人募集を推進する。町内会配布の支倉通信に介護人及び運転手募集記事を掲載する。	「だいち」として左記に取り組むことはできませんでした。次年度は「すてっぷ・はうす」と連携し、取り組んでいきたいと思いをします。
リスク管理	コロナ感染や疑いのある利用者・家族の相談対応のチェックリストを整備する。引越しに伴う移転先でのテナント間のコロナ感染対策や防災対策を周知する。	感染防止策の変更（待機期間等）があった際にはその都度情報共有を図りました。法人内外の状況等について、打ち合わせ等で職員間の情報共有を行うことができました。
公用車管理 安全運転	チェックシートをもとに運行前点検を励行する。車両の安全運転講習会を実施する。	安全運転講習会を実施することはできませんでしたが、日々公用車運転の際には注意喚起を図ったため、故障やトラブルを未然に防止できました。
職場内コミュニケーションの活性化	面談（1on1 ミーティング）を定期的実施する。	年度途中で管理者が代わったため、定期的な面談は実施できませんでした。相談員は訪問等で不在になることが多いため、日常のなかでコミュニケーションを図るよう取り組んでいきたいと思いをします。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
とびらミーティング	週1回	ケースレビュー、支援方針検討等
とびら全ケースレビュー	年2回	全ケースの状況を確認、ケース移管・終結の検討等
職員会議	月1回	全職員で情報共有と協議確認事項等

< 内部研修 >

- ・危険予知・事故回避トレーニング（JAF 動画）「市街地/住宅地/駐車場などの走行における注意点」
- ・「視覚障害のある方のグループホーム」（千葉県グループホーム大会より）
- ・権利擁護内部研修
- ※その他法人内研修へ対象者が参加

<利用状況等> 「 IV 参考資料 」に掲載

## 9. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」事業報告

### 【実施事業】

- (1) 障害者相談支援事業「くれよん」※一般、指定特定、療育支援
- (2) 日中一時支援事業/短期入所「すきっぷ」
- (3) ホームヘルプサービス事業「びぼっと」※グループホームにおける居宅介護  
※個人単位で居宅介護等を利用するグループホーム類型に対応する事業所
- (4) 共同生活援助事業「ひこうき雲」※グループホーム5ヶ所

### ○ はじめに

これまで計画に掲げながらコロナ禍の影響により実施できなかった「地域社会・地域住民との交流（講座、サロン等）」について、令和4年度は2回実施することができました（「風鈴作り」「ポールウォーキング」）。令和5年度も継続して取り組み、少しでも多くの地域の方々に参加してもらえるよう工夫をしていきたいと思えます。

相談支援事業（計画相談/委託相談）は、障害種別を超えた対応が求められ、ケースレビューや事例検討等、職員個々のみならず、事業全体としてのスキルアップが求められます。今年度はびぼっと支倉「とびら」と連携し、新任職員を対象とした座談会の実施、相談事業としてのリスクの洗い出しと対応の検討を行いました。また、社会福祉士養成校からの社会福祉援助技術実習生2名の受け入れを行い、福祉の将来を担う人材育成に努めました。宮城県のICT補助金を活用し、モバイルパソコンを購入しました。

ホームヘルプサービス事業は、特定事業所加算の取得のための準備を行い、2月に特定事業所加算を取得しました。日々のヘルパー記録（報告書）の活用によりグループホームで居宅介護を担うヘルパーとの情報共有を図りました。

### ○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- グループホームとともに権利擁護・虐待防止委員会を定期的で開催し、意見交換する機会を設けました。
- 権利擁護内部研修（1月）では、相談員が訪問先の事業所等で感じた利用者への不適切と思われる支援について取り上げ、今後の対応等について意見交換しました。

### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- コロナ禍のため、地域行事等は中止となり、地域交流の機会はあまりありませんでした。
- サロン（「風鈴作り」「ポールウォーキング」）を実施しました。次年度も継続して取り組み、少しでも多くの地域の方々に参加してもらえるようお知らせ等をしたいと思えます。

### ○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 通信（「びげっと」）を発行し、情報の発信を行いました。
- 地域交流等の取り組みについては、次年度もサロンを継続して取り組みたいと思えます。

### ○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- ホームヘルプサービス事業（「びぼっと」）は、特定事業所加算取得のための準備として、日々の入居者状況の情報共有（ヘルパー記録の共有）や毎月ヘルパー連絡会をグループホーム

で試行しました。「びぼっと」は2月に特定事業所加算取得しました。

- 相談支援事業では、法人内相談支援事業検討会においてあらためて各種加算について学習する機会を設けました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 今年度もコロナ禍のため外部研修は対面ではなく、オンライン研修が主となり、積極的にオンライン研修を受講しました。
- 東北福祉大学より社会福祉援助技術実習生2名の受け入れをしました。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 区自立支援協議会、地域包括とのつながり、サロン、カフェ等への参画	地域課題の抽出と整理、若林区社会福祉協議会等の関係機関との連携	毎月区自立支援協議会に相談員が参加し、関係機関との情報共有等を図りました。コロナ禍のためサロン等へ参加する機会はありませんでした。
(2) 地域住民との交流ができるような取り組み	講座、サロン等の実施	年2回サロンを実施しました。次年度も継続して取り組み、少しでも多くの地域の方に参加してもらえよう工夫をしたいと思います。
(3) 相談事業、ヘルプ事業とグループホームとの連携	入居者状況の把握、チャットワークの運用による情報共有	事業間の連携を図り（相談事業-ヘルプ事業-グループホーム）、健康面や今後の暮らしについて情報を共有しました。
(4) 南小泉すきっぷの利用（賃貸）	南小泉すきっぷの活用	グループホームで新型コロナウイルスが発生した際に入居者が一時的に滞在する場所として使用しました。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月1回	予定、法人関連・各事業進捗、会議・委員会報告等
チーフ会議	月1回	P若全体確認事項、法人関連・各事業進捗等
各事業会議	月1回	前月実績確認、確認事項、ヒヤリハット・事故確認、ケース関連等
ケースレビュー、事例検討	レビュー月2回 事例検討月1回	相談員が個別に対応しているケースについてチーム内での情報共有及び検討
区自立協運営会議	月1回	区自立支援協議会の運営に関する会議（事務局会議）
区相談実務者ネットワーク会議	年2回	区の障害福祉関係者の交流（顔の見える関係作り）、各種情報共有と課題解決

仙台市短期入所事業 所連絡協議会	隔月	短期入所等事業全体の課題及び人材育成（研修会等の企画等）
---------------------	----	------------------------------

< 内部研修 >

◇職員会議

- ・「東北ココから～ともに生きる、ともに助かる・誰もが助かる地域を」（NHK）
  - ・危険予知・事故回避トレーニング（JAF 動画）「市街地/住宅地などの走行における注意点」
  - ・危険予知・事故回避トレーニング（JAF 動画）「駐車場における注意点」
  - ・「本人が望む暮らしの実現に向けて～実現の仕方をどうしていくか」  
（日本 GH 学会オンライン全国大会より）
  - ・権利擁護内部研修（相談員はみた～シリーズ 2022）
  - ・「視覚障害のある方のグループホーム」（千葉県グループホーム大会より）
- ◇その他法人内研修へ対象者が参加

<利用状況等> 「 IV 参考資料 」に掲載

## 10. 「グループホーム」事業報告

### 【実施事業】

#### (1) 障害福祉サービス事業（共同生活援助5ヶ所/ひこうき雲）

##### ○ はじめに

昨年度に引き続き日々、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、感染防止に取り組みました。8月末～11月にかけて3箇所のグループホームで8名の入居者が感染しました。感染者等が発生した際には、グループホーム内でのゾーニング（生活空間の区分け）を円滑に行うことができました。また、「南小泉すきっぷ」を入居者が一時的に滞在する場所として使用しました。昨年1月末に新型コロナウイルスに感染し、その後他の症状の発症に伴い長期間入院をされていた入居者の方が身体状況の低下に伴い、グループホームを退去され、介護施設へ転居されました。宮城県のICT補助金を活用し、記録システム（ブルーオーシャン）の導入を行い、日々の入居者の様子等についてホーム-サービス管理責任者-サービス提供責任者-看護師-管理者が一体的に情報の共有を図る取り組みを開始しました。下半期に新規グループホームを想定したグループホームでの職員研修（法人内事業所職員）を実施予定でしたが、候補地等新規グループホームの準備が進んでいないため、次年度へ持ち越しとなりました。次年度は新規グループホーム開設の進捗にあわせて取り組んでいきたいと思っております。

##### ○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- ピボット若林とともに権利擁護・虐待防止委員会を定期的に開催し、意見交換する機会を設けました。「支援に関するアンケート」を実施し、権利擁護、虐待防止について振り返る機会を作りました。
- グループホーム全体職員研修会（11月）において、「支援に関するアンケート」の振り返りや日本知的障害者協会のテキストを活用し、事例をもとにグループワークを実施しました。
- 入居者懇談会は入居者同士で各ホームの様子を聞き、ホームで困っていること等を話題にする機会となっています。昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍で外出等の機会が少なくなっているため、余暇的な内容を取り入れながら行いました。

##### ○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 昨年度に引き続き今年度もコロナ禍のため町内会行事（夏祭り、防災訓練、地域清掃等）が中止となり、地域交流の機会をもつことはあまりできませんでした。

##### ○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 各ホームにおいて、消防訓練を年2回以上実施し、夜間を想定した訓練を実施しました。若林区内のグループホームにおいては、洪水を想定した避難訓練（7月）を実施しました。
- グループホーム通信（「ももたろう通信」）を年3回発行し、グループホームの入居者の生活等について情報の発信を行いました。

##### ○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- グループホームにおける居宅介護（「びぼっと」）では、特定事業所加算取得のための準備として日々の入居者状況の情報共有（ヘルパー記録の共有）や毎月ヘルパー連絡会を実施しました。
- 日々のヘルパー記録（報告書）の活用によりグループホームで居宅介護を担うヘルパーとサービス提供責任者間の情報共有を図りました。



## ○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み(派遣職員含)

- 仙台市グループホーム連絡会主催の研修会等、積極的にオンライン研修へ参加しました。
- コロナ禍のため2度延期となりましたが、11月にグループホーム全職員を対象とした研修会を実施しました。
- 7月には仙台市グループホーム連絡会主催の「グループホーム職員を対象とした新型コロナウイルス感染症防止に関する研修会(オンライン)」に参加し、新型コロナウイルスの現状、今後の感染対策等について学びました。
- グループホームで新型コロナウイルスが発生した場合に備え、各グループホームのゾーニングの可視化や衛生物品の備蓄を行いました。

## ○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 本人中心の個別支援計画の推進	各ホームミーティング等の定期的開催及びケース検討会の実施	ミーティングや職員会議にて、個別支援計画について情報共有を行いました。個別支援計画会議を各ホームにて実施し(中間まとめ/年度末まとめ)、担当職員だけではなく、他職員との情報交換等を図りました。
(2) 通所事業所、相談事業、医療機関等との連携	日々の入居者状況の把握(引継ぎ)、各ホームと通所事業所等との連絡会の実施	日々ホームと通所事業所での連絡(引継ぎ)以外に必要な応じてケア会議を実施し情報共有を図りました。加齢等に伴う健康面の課題について各事業と情報共有に努めました。
(3) 職員間の情報共有	記録システムの導入、チャットワークの運用	チャットワークの活用によりタイムリーに職員間で情報共有できるようになりました。今年度は記録システム(ブルーオーシャン)の導入により、日々の入居者の様子等について紙ベースではなく、データ上で情報共有できる取り組みを開始しました。
(4) 新型コロナウイルス関連	日々の感染予防の取り組み	日々新型コロナウイルス感染症対策を継続しました。グループホームで新型コロナウイルスが発生した際には、グループホーム内でのゾーニング(生活空間の区分け)を円滑に行うことができました。また、南小泉すきっぷを入居者が一時的に滞在する場所として使用しました。
(5) 他法人 GH 等との連携	GHに関する勉強会、研修会への参加	仙台市 GH 連絡会に参画し、研修会へ参加し、情報収集することができました。

○ その他の活動

- 関係機関（他 GH、日本 GH 学会等）と連携し、グループホーム運営等に関する情報収集を図ります。
- 仙台市グループホーム連絡会へ参画し、グループホームに関する情報収集及び事業所間の交流を図ります。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 2 回	法人、GH 運営の方向性、事業報告、課題検討等
オンラインミーティング(職員会議)	月 2 回	GH 運営の方向性、課題検討、意見交換、内部研修等
各ホームミーティング	月 1 回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換等 (ヘルパー連絡会と同日開催)
各ホームヘルパー連絡会	月 1 回	入居者状況把握、意見交換等
個別支援計画会議	年度初/中間/ 年度末	個別支援計画立案、見直し、検討等
家族懇談会	年 1 回程度	GH 全体状況確認、入居者状況把握、意見交換等
南北グループホーム連絡会	各 GH 年 2 回程度	GH・通所事業所との情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月 1 回	意見交換、入居者イベント企画等

※ その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

< 内部研修等 >

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東北ココから～ともに生きる、ともに助かる・誰もが助かる地域を」(NHK)</li> <li>・危険予知・事故回避トレーニング (JAF 動画)「市街地/住宅地などの走行における注意点」</li> <li>・危険予知・事故回避トレーニング (JAF 動画)「駐車場における注意点」</li> <li>・グループホーム全体職員研修会 (権利擁護内部研修)</li> </ul>
<p>◇仙台市グループホーム連絡会主催の研修 (オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム職員を対象とした新型コロナウイルス感染症防止に関する研修会</li> <li>・障害者グループホームセミナー (視察研修報告/グループワーク)</li> <li>・障害者グループホームセミナー (「千葉県のグループホーム等支援ワーカーの役割について」「グループホームの権利擁護について」)</li> </ul>
<p>◇その他法人内研修へ対象者が参加</p>

## IV 參考資料

1 日中活動支援部門 利用実績

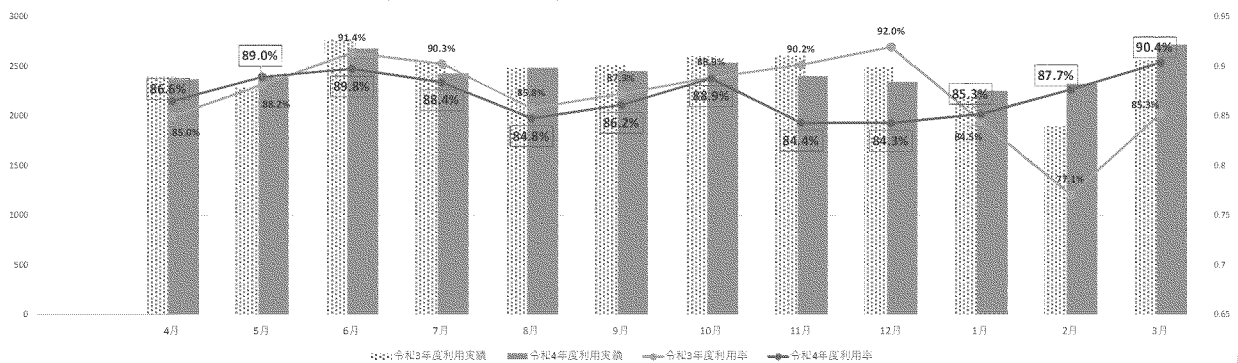
■利用者出欠状況

令和4年4月1日～令和5年3月31日

施設	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月※	3月	合計	
		開所日数	19	19	22	20	22	21	21	21	21	20	19	19	22
仙台	利用予定者数	703	713	814	740	814	756	901	851	841	794	797	912	9,636	
	実利用者数	606	620	700	634	642	610	784	696	687	674	698	833	8,184	
	利用率	86.2%	87.0%	86.0%	85.7%	78.9%	80.7%	87.0%	81.8%	81.7%	84.9%	87.6%	91.3%	84.9%	
さんしょ	利用予定者数	129	125	128	118	127	118							745	
	実利用者数	110	109	118	106	82	86							611	
	利用率	85.3%	87.2%	92.2%	89.8%	64.6%	72.9%							82.0%	
合計	利用予定者数	832	838	942	858	941	874	901	851	841	794	797	912	10,381	
	実利用者数	716	729	818	740	724	696	784	696	687	674	698	833	8,795	
	利用率	86.1%	87.0%	86.8%	86.2%	76.9%	79.6%	87.0%	81.8%	81.7%	84.9%	87.6%	91.3%	84.7%	
	一日平均	37.68	38.37	37.18	37.00	32.91	33.14	37.33	33.14	34.35	35.47	36.74	37.86	35.90	
つどいの家・コベル	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	開所日数	20	20	22	20	21	21	20	21	20	20	20	23	248	
	コベル①	利用予定者数	380	377	415	378	383	393	810	856	849	812	817	982	7,452
		実利用者数	353	362	403	358	348	371	795	787	755	717	746	859	6,854
		利用率	92.9%	96.0%	97.1%	94.7%	90.9%	94.4%	98.1%	91.9%	88.9%	88.3%	91.3%	87.5%	92.0%
	コベル②	利用予定者数	360	366	369	342	329	376							2,142
		実利用者数	302	326	354	315	312	335							1,944
		利用率	83.9%	89.1%	95.9%	92.1%	94.8%	89.1%							90.8%
	オリザ	利用予定者数	111	100	101	102	100	103							617
		実利用者数	101	74	84	87	88	96							530
		利用率	91.0%	74.0%	83.2%	85.3%	88.0%	93.2%							85.9%
	合計	利用予定者数	851	843	885	822	812	872	810	856	849	812	817	982	10,211
		実利用者数	756	762	841	760	748	802	795	787	755	717	746	859	9,328
		利用率	88.8%	90.4%	95.0%	92.5%	92.1%	92.0%	98.1%	91.9%	88.9%	88.3%	91.3%	87.5%	91.4%
一日平均		37.80	38.10	38.23	38.00	35.62	38.19	39.75	37.48	37.75	35.85	37.30	37.35	37.61	
つどいの家・アプリ	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	開所日数	20	19	22	20	23	21	22	22	21	20	20	23	253	
	アプリ	利用予定者数	596	567	657	596	686	625	755	756	724	688	687	704	8,041
		実利用者数	499	502	578	522	589	549	624	606	592	556	573	644	6,834
		利用率	83.7%	88.5%	88.0%	87.6%	85.9%	87.8%	82.6%	80.2%	81.8%	80.8%	83.4%	91.5%	85.0%
		一日平均	24.95	26.42	26.27	26.10	25.61	26.14	28.36	27.55	28.19	27.80	28.65	28.00	27.01
	ミント	開所日数	20	19	22	20	23	21							125
		利用予定者数	104	81	97	90	101	89							562
		実利用者数	69	75	76	63	81	86							450
		利用率	66.3%	92.6%	78.4%	70.0%	80.2%	96.6%							80.1%
	合計	開所日数	3.45	3.95	3.45	3.15	3.52	4.10							3.60
		利用予定者数	700	648	754	686	787	714	755	756	724	688	687	704	8,603
		実利用者数	568	577	654	585	670	635	624	606	592	556	573	644	7,284
		利用率	81.1%	89.0%	86.7%	85.3%	85.1%	88.9%	82.6%	80.2%	81.8%	80.8%	83.4%	91.5%	84.7%
一日平均	28.40	30.37	29.73	29.25	29.13	30.24	28.36	27.55	28.19	27.80	28.65	28.00	30.61		
つどいの山家	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	開所日数	19	19	22	20	22	21	21	21	20	19	19	22	245	
	生活介護	利用予定者数	273	273	316	289	303	303	303	304	288	274	274	316	3,516
		実利用者数	260	250	297	265	282	259	264	249	258	243	244	305	3,176
		利用率	95.2%	91.6%	94.0%	91.7%	93.1%	85.5%	87.1%	81.9%	89.6%	88.7%	89.1%	96.5%	90.3%
一日平均		13.68	13.16	13.50	13.25	12.82	12.33	12.57	11.86	12.90	12.79	12.84	13.86	12.96	
若林障害者福祉センター	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	開所日数	21	20	22	22	21	21	21	19	19	19	19	22	246	
	生活介護	利用予定者数	88	85	95	96	94	92	92	90	83	83	84	96	1,078
		実利用者数	75	73	77	83	67	68	75	72	57	70	71	81	869
		利用率	85.2%	85.9%	81.1%	86.5%	71.3%	73.9%	81.5%	80.0%	68.7%	84.3%	84.5%	84.4%	80.6%
一日平均		3.57	3.65	3.50	3.77	3.19	3.24	3.57	3.79	3.00	3.68	3.74	3.68	3.53	
日中活動部門法人合計	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	利用予定者数	2,744	2,687	2,992	2,751	2,937	2,855	2,861	2,857	2,785	2,651	2,659	3,010	33,789	
	実利用者数	2,375	2,391	2,687	2,433	2,491	2,460	2,542	2,410	2,349	2,260	2,332	2,722	29,452	
	利用率	86.6%	89.0%	89.8%	88.4%	84.8%	86.2%	88.9%	84.4%	84.3%	85.3%	87.7%	90.4%	87.2%	
	一日平均(8拠点計)	121.14	123.64	122.14	121.27	113.67	117.14	121.59	113.81	116.19	115.60	119.27	120.76	120.62	

(注) 実利用者数については、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時的な措置による『みなし通所』を含みます。

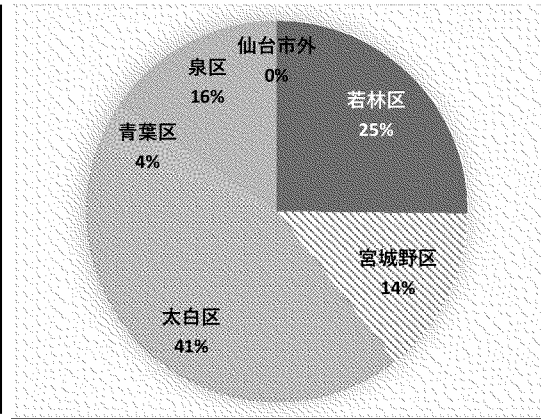
利用実績総数・利用率における前年度比較(日中活動支援事業部門)



■利用者居住地

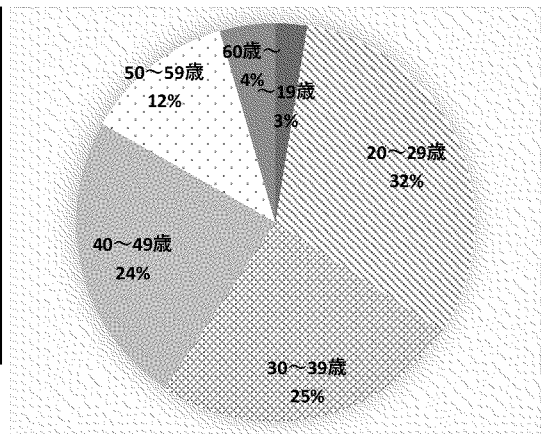
(R5. 3. 31現在)

	若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
仙台つどいの家	1	14	1	4	23	0	43
つどいの家・コベル	24	6	16	1	0	0	47
つどいの家・アプリ	1	0	36	0	0	0	37
八木山つどいの家	3	2	8	1	1	0	15
若林障害者福祉センター	10	0	3	0	0	0	13
法人通所合計	39	22	64	6	24	0	155



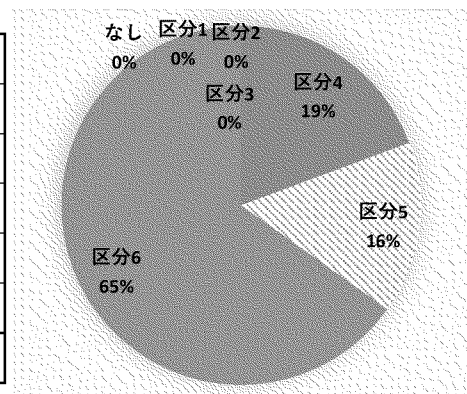
■利用者年齢区分

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
仙台つどいの家	1	11	8	14	7	2	43
つどいの家・コベル	2	8	13	12	8	4	47
つどいの家・アプリ	1	15	12	7	2	0	37
八木山つどいの家	0	9	3	1	2	0	15
若林障害者福祉センター	0	6	3	3	0	1	13
法人通所合計	4	49	39	37	19	7	155



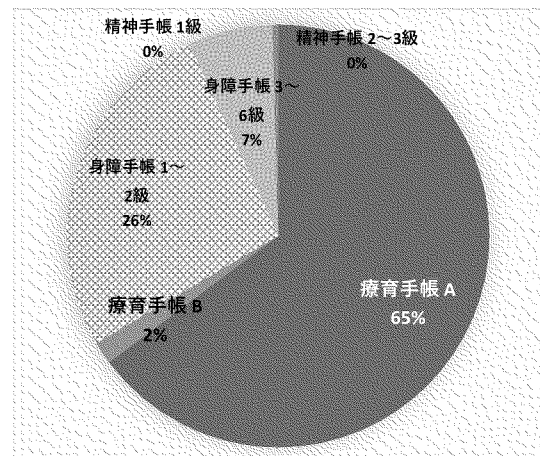
■障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
仙台つどいの家	0	0	0	0	12	5	26	5.3
つどいの家・コベル	0	0	0	0	6	8	33	5.6
つどいの家・アプリ	0	0	0	0	3	3	31	5.8
八木山つどいの家	0	0	0	0	7	6	2	4.7
若林障害者福祉センター	0	0	0	0	2	2	9	5.5
法人通所合計	0	0	0	0	30	24	101	5.5



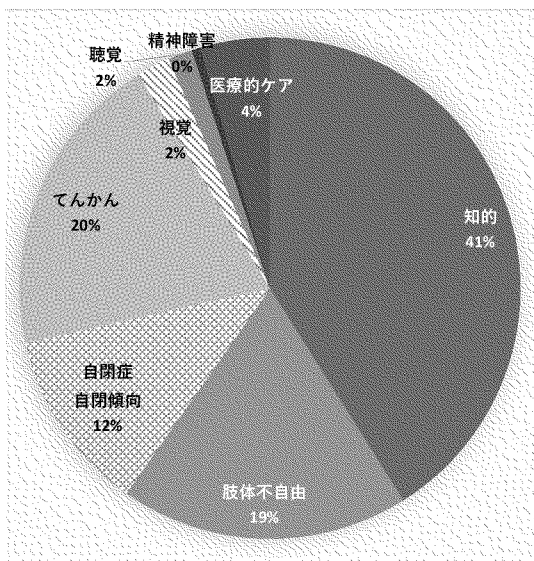
■手帳保持状況

	療育手帳		身障手帳		精神手帳	
	A	B	1 5 2級	3 5 6級	1級	2 3 3級
仙台つどいの家	43	0	20	8	0	0
つどいの家・コベル	44	1	20	3	0	0
つどいの家・アプリ	35	2	16	3	0	0
八木山つどいの家	14	1	2	1	1	0
若林障害者福祉センター	13	0	3	0	0	0
法人通所合計	149	4	61	15	1	0



■利用者障害種別

	知的	肢体不自由	自閉症 自閉傾向	てんかん	視覚	聴覚	精神障害	医療的ケア
仙台つどいの家	43	20	16	22	3	5	0	6
つどいの家・コベル	47	25	7	23	2	1	0	5
つどいの家・アプリ	37	18	10	20	2	0	0	3
八木山つどいの家	15	3	7	3	1	0	1	0
若林障害者 福祉センター	12	4	4	6	0	0	1	3
法人 通所合計	154	70	44	74	8	6	2	17



## 2 地域生活支援部門 利用実績

### ■ 短期入所・日中一時支援 事業実績

(令和5年3月末日時点)

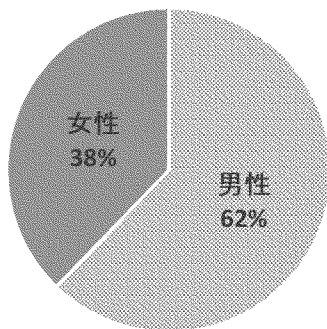
利用契約者数 :262名(前年度比:+22名)

※3拠点合算

#### 1. 利用登録者状況

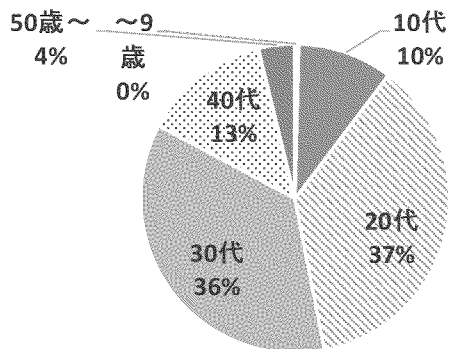
##### 【性別】

利用登録者	男性	女性
性別別	163	99



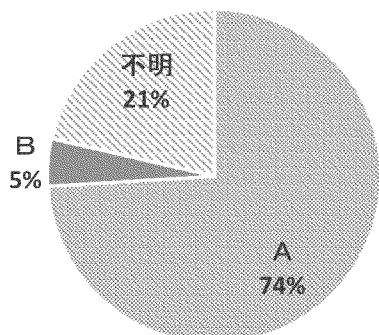
##### 【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	26	96	94	35	10



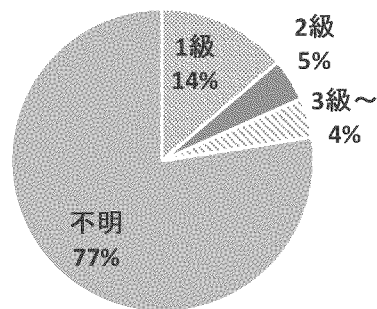
##### 【療育手帳】

利用登録者	A	B	不明
療育手帳保持	194	12	56



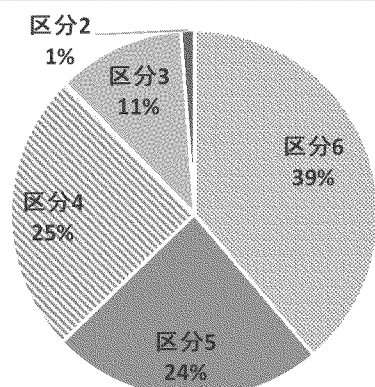
##### 【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	不明
身障手帳保持	36	12	11	203



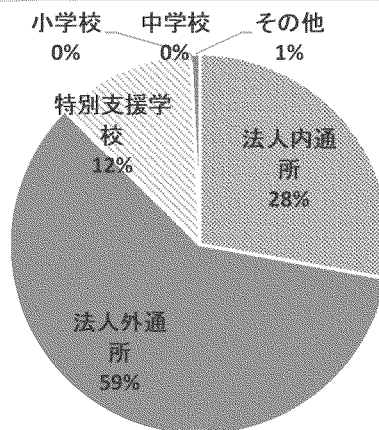
##### 【障害支援区分】

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2
97	60	62	28	3



##### 【在籍】

法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
73	156	31	0	0	2



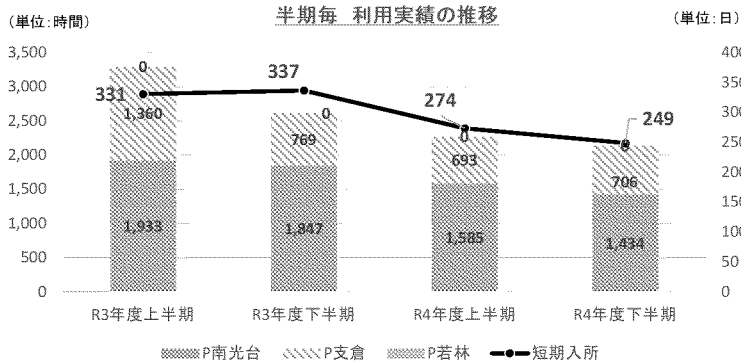
【利用実績】

《日中一時支援事業》

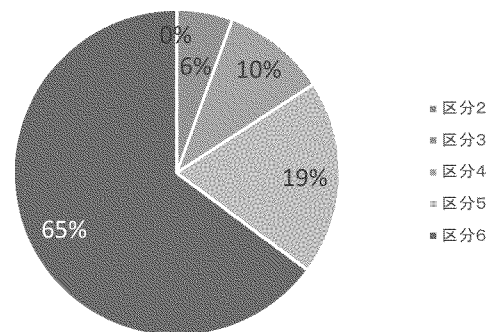
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
3拠点 合算	時間	397	414	355	382	371	359	370	290	369	333	341	437	368.2	4,418
	件数	135	136	136	137	136	135	143	115	130	125	130	156	134.5	1,614
	送迎(件数)	151	159	157	139	143	150	162	122	136	128	156	154	146.4	1,757
すてっ ぷ・はうす	時間	276	283	251	272	245	258	271	182	215	251	231	284	251.6	3,019
	件数	95	92	98	94	94	100	104	76	84	91	95	106	94.1	1,129
	送迎(件数)	119	115	119	107	113	120	134	92	94	100	124	120	113.1	1,357
だいち	時間	121	131	104	110	126	101	99	108	154	82	110	153	116.6	1,399
	件数	40	44	38	43	42	35	39	39	46	34	35	50	40.4	485
	送迎(件数)	32	44	38	32	30	30	28	30	42	28	32	34	33.3	400
すきっぶ	時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	送迎(件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0

《短期入所事業》

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
3拠点 合算	区分2(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分3(日数)	2	2	2	2	6	2	4	0	1	3	3	2	2.4	29
	区分4(日数)	2	4	6	6	4	7	7	4	2	0	3	9	4.5	54
	区分5(日数)	11	9	12	8	4	6	11	2	7	8	10	13	8.4	101
	区分6(日数)	30	32	32	29	33	23	30	26	14	36	27	27	28.3	339
	食数(回数)	41	41	46	41	45	34	52	32	22	47	42	50	41.1	493
	送迎(件数)	18	16	18	19	15	12	23	11	15	13	14	16	15.8	190
	緊急受入(日数)	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0.8	10
すてっ ぷ・はうす	区分2(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分3(日数)	2	2	2	2	6	2	4	0	1	3	3	2	2.4	29
	区分4(日数)	2	4	6	6	4	7	7	4	2	0	3	9	4.5	54
	区分5(日数)	11	9	12	8	4	6	11	2	7	8	10	13	8.4	101
	区分6(日数)	30	32	32	29	33	23	30	26	14	36	27	27	28.3	339
	食数(回数)	41	41	46	41	45	34	52	32	22	47	42	50	41.1	493
	送迎(件数)	18	16	18	19	15	12	23	11	15	13	14	16	15.8	190
	緊急受入(日数)	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0.8	10
だいち	区分2(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分3(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分4(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分5(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分6(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	食数(回数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	送迎(件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	緊急受入(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
すきっぶ	区分2(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分3(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分4(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分5(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分6(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	食数(回数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	送迎(件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	緊急受入(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0



障害支援区分 短期入所事業利用割合





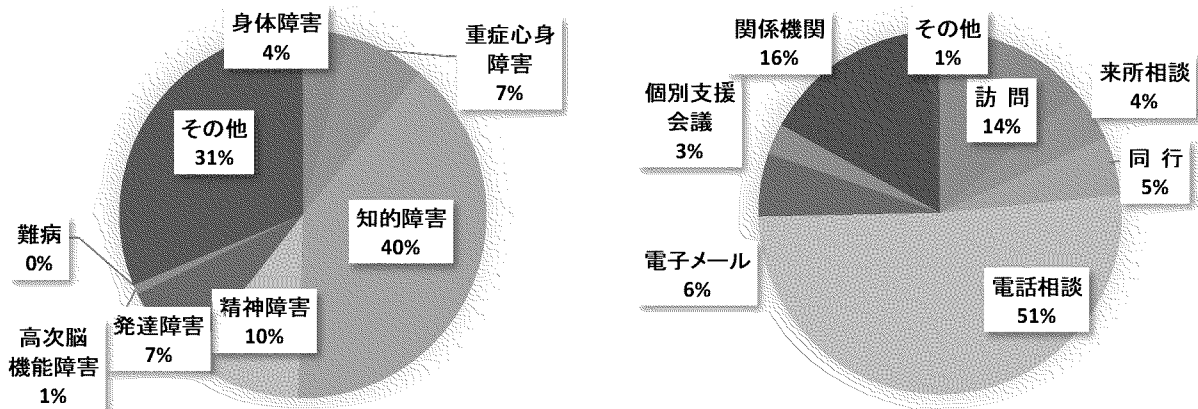
■ 障害者相談支援事業 事業実績

○ 実施施設： 地域生活サポートセンター「びぼっと支倉」 障害者相談支援事業所「とびら」

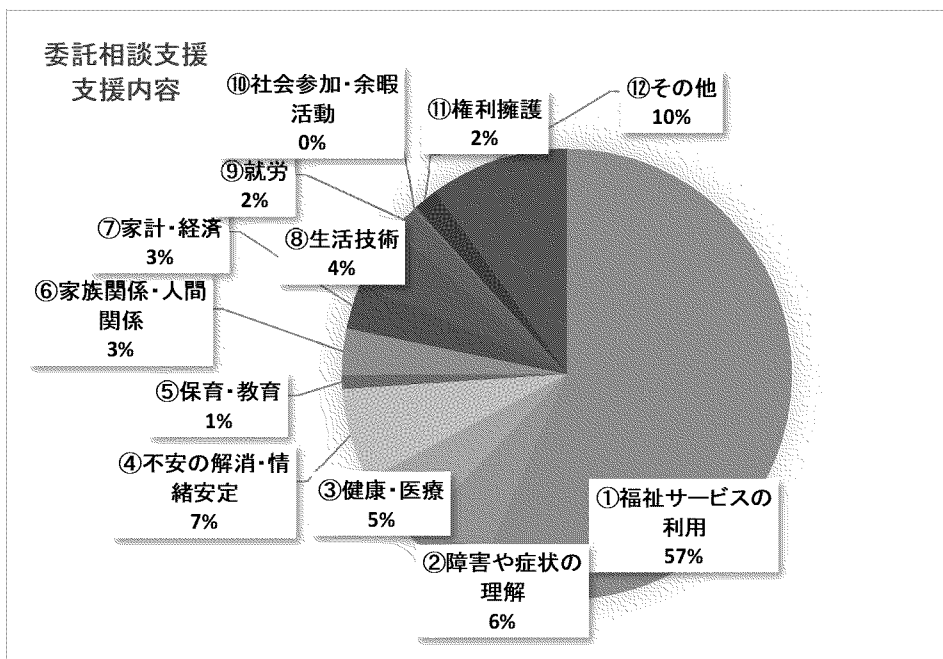
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	193	9	12	82	25	8	2	0	69
障害児	37	1	5	15	0	10	0	0	8
計	230	10	17	97	25	18	2	0	77

支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	331	109	127	1,239	136	67	381	29	2,419



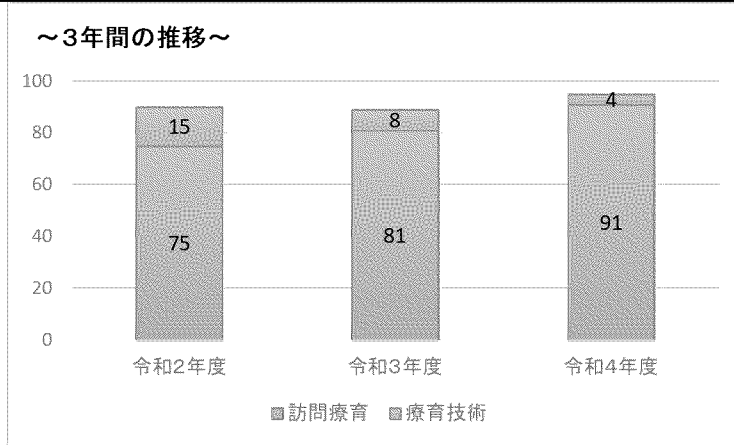
支 援 内 容							
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済
延件数	1,371	136	120	162	24	80	81
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他	合計	
延件数	108	47	6	42	242	2,419	



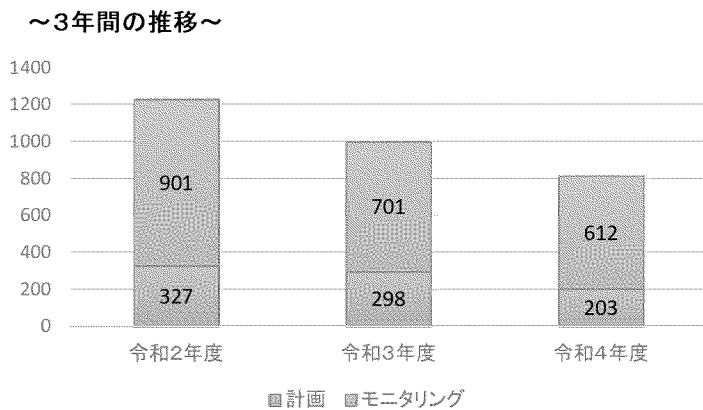
～ 前年度との比較 ～

①	22.8 %	↑
②	△ 3.0 %	↓
③	△ 5.3 %	↓
④	△ 3.6 %	↓
⑤	△ 2.0 %	↓
⑥	△ 3.7 %	↓
⑦	△ 4.2 %	↓
⑧	0.4 %	→
⑨	△ 3.6 %	↓
⑩	△ 1.6 %	↓
⑪	0.5 %	→
⑫	3.0 %	↑

仙台市障害児等療育支援事業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	6	6	9	7	2	11	7	9	7	6	10	11	91
療育技術指導事業	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4
計	6	7	10	7	2	11	8	9	8	6	10	11	95



サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	27	13	15	18	17	16	17	23	20	9	13	15	203	16.9
モニタリング	61	59	53	54	55	44	54	48	45	49	49	41	612	51.0
計	88	72	68	72	72	60	71	71	65	58	62	56	815	67.9



令和2年度、3年度に関しては3月退職者が前年度以前までに留保していた請求を4月に大量に請求したため特にモニタリング件数が増加している。次年度以降は、請求月ではなく、作成日でカウントするように統一していく。くれよんとも検討が必要。

□ 利用契約者数の推移(前年度比較)

※3月末日現在

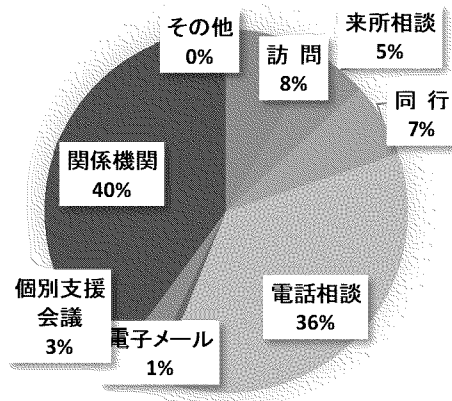
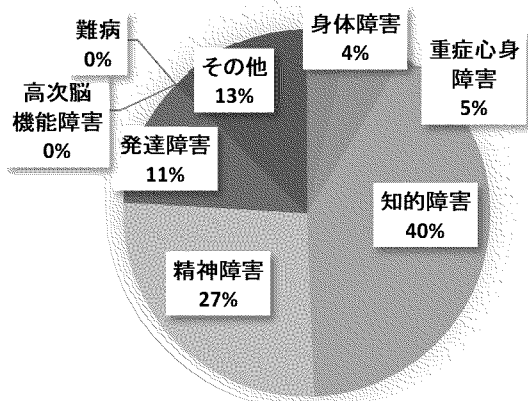
年 度	令和4年度		令和3年度		増減数	
計画相談契約者数	225	名	231	名	△ 6	名
うち 成人数	192	名	192	名	0	名
うち 児童数	33	名	39	名	△ 6	名
一般相談登録者数	159	名	89	名	70	名
相談員数	7	名	7	名	0	名
一人あたりの担当ケース数(平均)	54.9	名	45.7	名	9.1	名

○ 実施施設： 地域生活サポートセンター「ピボット若林」 障害者相談支援事業所「くれよん」

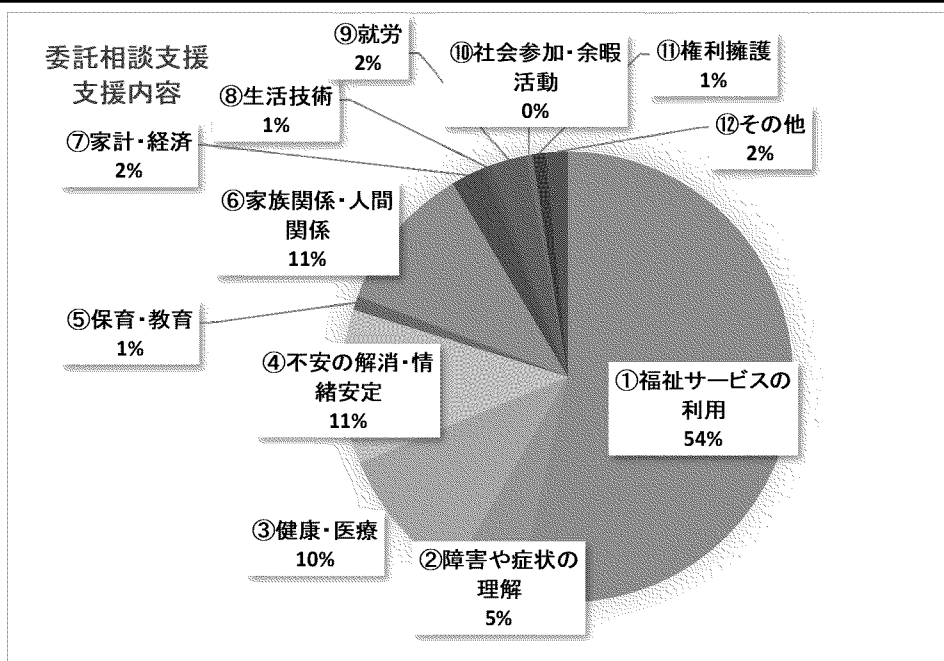
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	56	1	0	21	21	5	0	0	8
障害児	23	2	4	11	0	4	0	0	2
計	79	3	4	32	21	9	0	0	10

支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	95	52	74	403	11	33	441	2	1,111



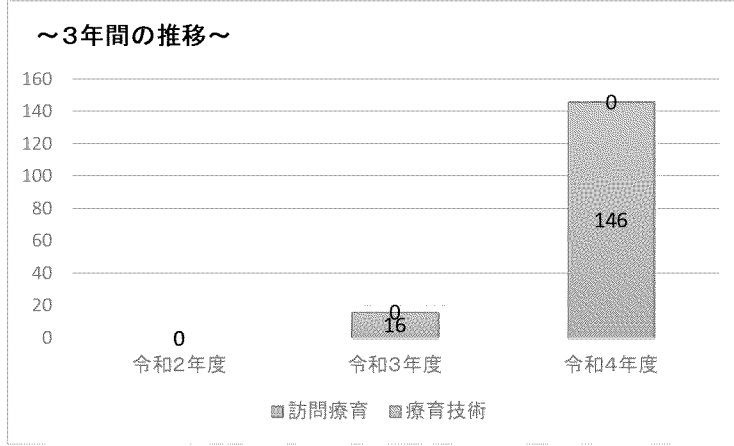
支 援 内 容							
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済
延件数	596	54	114	123	11	118	26
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他		
延件数	7	29	5	10	18	合計	
						1,111	



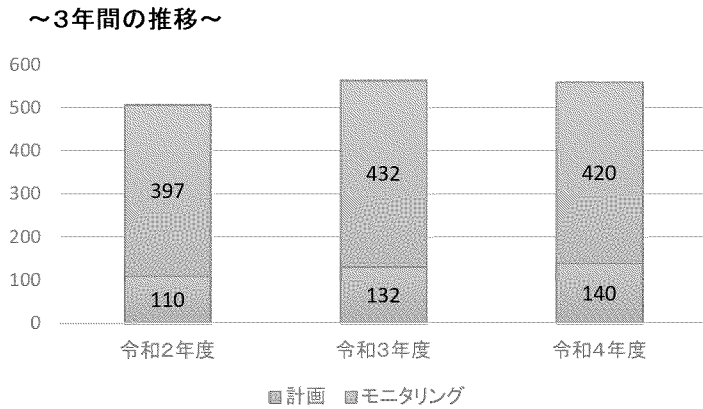
～ 前年度との比較 ～

①	10.7 %	↑
②	0.5 %	↑
③	0.7 %	↑
④	0.1 %	→
⑤	△ 1.3 %	↓
⑥	△ 0.3 %	→
⑦	1.5 %	↑
⑧	△ 3.3 %	↓
⑨	△ 10.5 %	↓
⑩	0.2 %	→
⑪	0.7 %	↑
⑫	1.2 %	↑

仙台市障害児等療育支援事業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	13	10	11	7	17	7	0	22	21	17	11	10	146
療育技術指導事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	10	11	7	17	7	0	22	21	17	11	10	146



サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	13	16	9	10	16	5	12	11	14	16	8	10	140	11.7
モニタリング	35	40	30	36	35	34	33	38	33	34	40	32	420	35.0
計	48	56	39	46	51	39	45	49	47	50	48	42	560	46.7



□ 利用契約者数の推移(前年度比較)

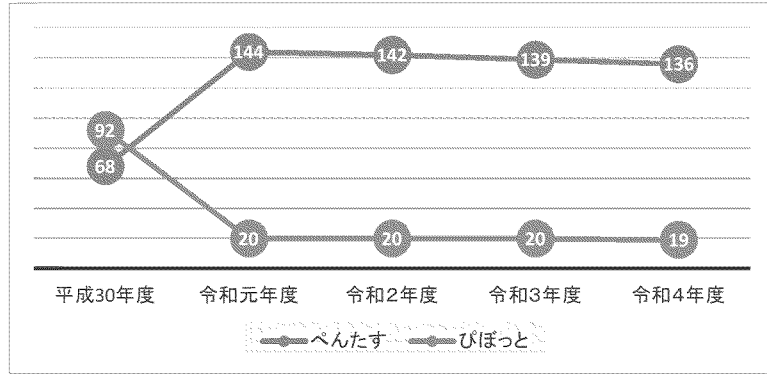
※3月末日現在

年 度	令和4年度	令和3年度	増減数
計画相談契約者数	144 名	148 名	△ 4 名
うち 成人数	138 名	140 名	△ 2 名
うち 児童数	6 名	8 名	△ 2 名
一般相談登録者数	42 名	40 名	2 名
相談員数	4 名	4 名	0 名
一人あたりの担当ケース数(平均)	46.5 名	47.0 名	-0.5 名

1. 利用契約者数の推移

年度	ぺんたす	びぼっと	計
平成30年度	68	92	160
令和元年度	144	20	164
令和2年度	142	20	162
令和3年度	139	20	159
令和4年度	136	19	155

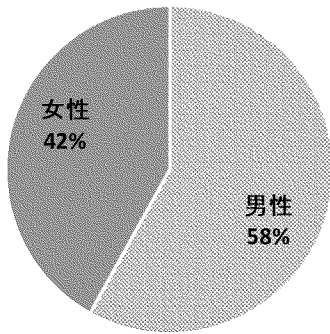
※令和元年度より事業所再編



2. 利用契約者の概要

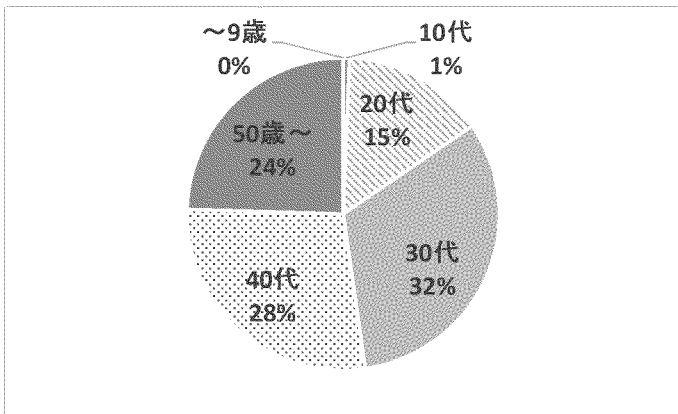
【性別】

利用登録者	合計		(内訳)			
	男性	女性	ぺんたす		びぼっと	
性別	90	65	77	59	13	6



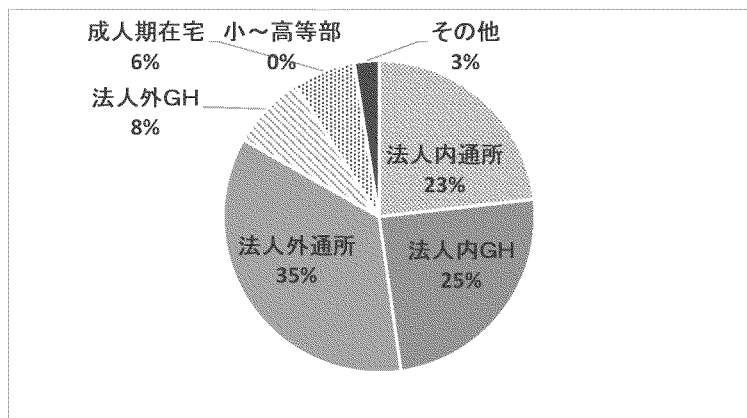
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	1	23	50	43	38
(内訳)						
ぺんたす	0	1	23	50	37	25
びぼっと	0	0	0	0	6	13



【在籍】

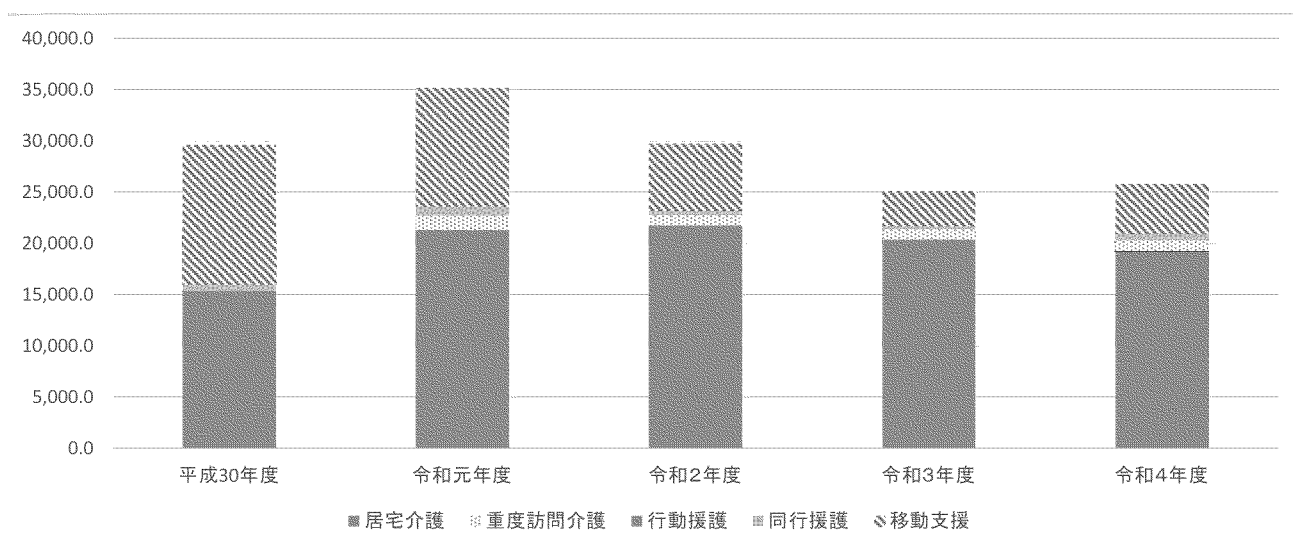
利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	36	38	55	12	0	10	4
(内訳)							
ぺんたす	36	19	55	12	0	10	4
びぼっと	0	19	0	0	0	0	0



3. 利用状況

(単位:時間)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
居宅介護	ぺんたす	9,961.5	4,932.5	4,458.0	4,184.5	4,020.0
	びぼっと	5,305.0	16,426.0	17,316.5	16,275.5	15,263.5
重度訪問介護	ぺんたす	0.0	1,382.0	1,047.0	967.5	1,070.0
	びぼっと	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行動援護	ぺんたす	157.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	びぼっと	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同行援護	ぺんたす	97.5	666.5	269.0	285.5	429.5
	びぼっと	529.0	274.0	152.5	18.5	205.5
移動支援	ぺんたす	4,110.5	11,505.0	6,581.0	3,434.5	4,874.0
	びぼっと	9,518.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	ぺんたす	14,326.5	18,486.0	12,355.0	8,872.0	10,393.5
	びぼっと	15,352.0	16,700.0	17,469.0	16,294.0	15,469.0

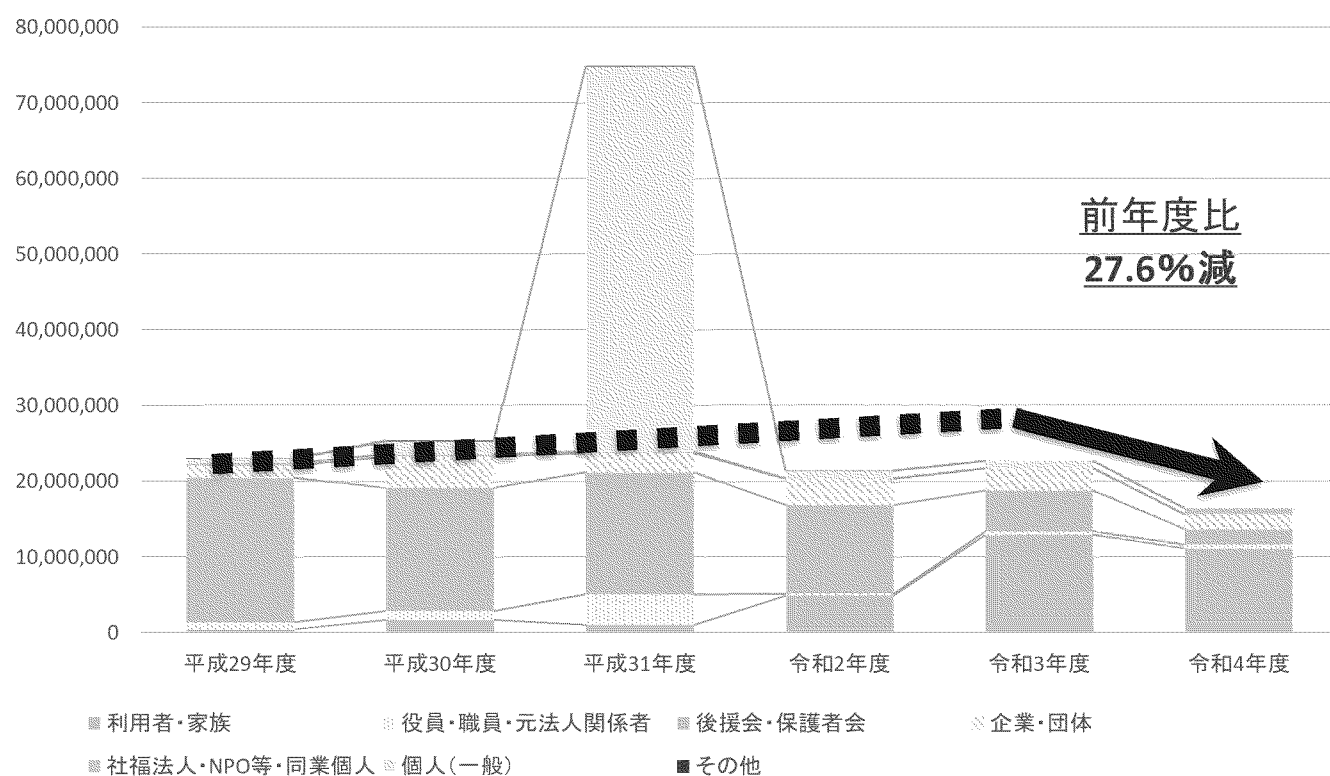


### 3 寄付金受領状況

#### □ 寄付金の推移

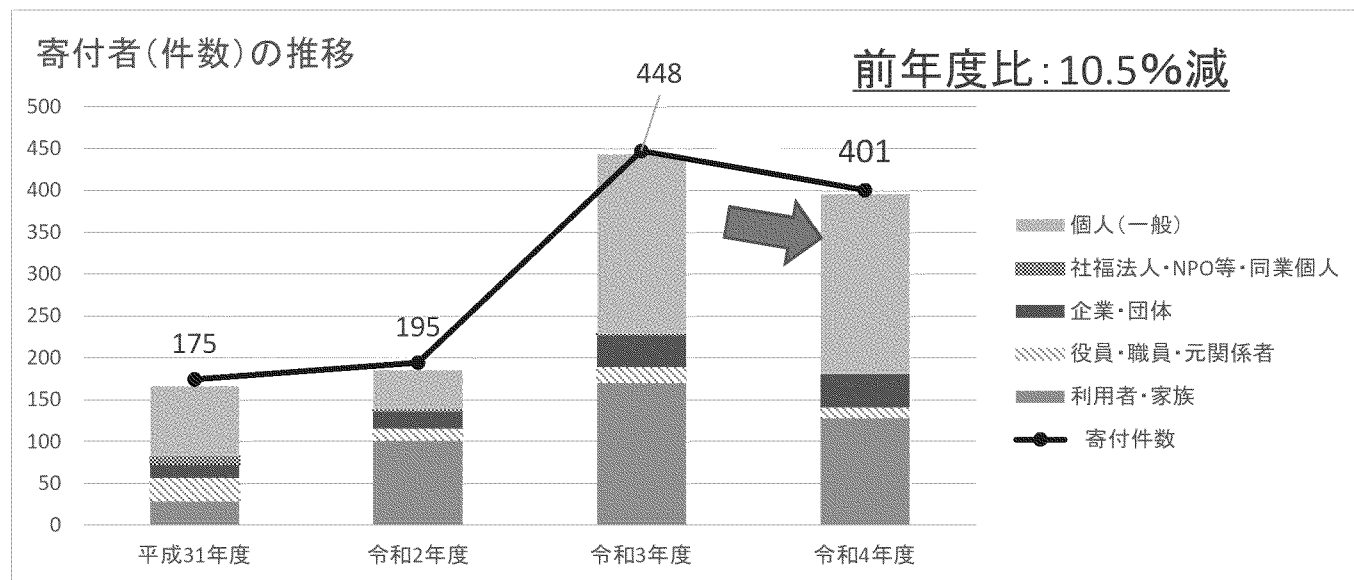
年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比(%)	
寄付金額	23,051,091	25,447,486	74,979,785	21,494,317	22,757,074	16,483,657	-27.6%	
(内訳)	利用者・家族	525,902	1,764,300	1,118,916	4,982,280	13,007,219	11,198,068	-13.9%
	役員・職員	542,454	619,107	3,949,000	210,366	443,277	514,050	16.0%
	元法人関係者	406,657	577,982	96,490	26,525	0	0	0.0%
	後援会・保護者会	19,066,618	16,264,149	16,110,578	11,756,744	5,414,254	2,039,000	-62.3%
	企業・団体	1,587,342	4,090,300	2,498,966	3,456,942	2,910,824	1,945,153	-33.2%
	社福法人・NPO等	152,583	45,000	54,000	41,000	20,000	0	-100.0%
	個人(同業関係)	170,000	270,000	183,000	0	0	0	0.0%
	個人(一般)	586,205	1,652,588	50,882,463	980,460	961,500	787,386	-18.1%
	その他	13,330	164,060	86,372	40,000	0	0	0.0%

#### 寄付金受領額の推移



□ 寄付者の推移

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
寄付件数	110	324	175	195	448	401	
(内訳)	利用者・家族	14	112	29	102	172	129
	役員・職員	17	31	18	12	16	13
	元法人関係者	8	13	10	2	2	0
	後援会・保護者会	6	7	7	8	4	5
	企業・団体	39	29	16	20	39	39
	社福法人・NPO等	5	1	3	3	1	0
	個人(同業関係)	4	9	7	0	0	0
	個人(一般)	15	120	84	47	214	215
	その他	2	2	1	1	0	0



□ ドナーレンジチャート

【 令和3年度 】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ~	15人・団体	6,136,789円	3.4%	33.5%
50,000円 ~ 199,999円	74人・団体	9,085,596円	16.6%	49.6%
10,000円 ~ 49,999円	142人・団体	2,294,600円	31.9%	12.5%
5,000円 ~ 9,999円	55人・団体	332,295円	12.4%	1.8%
1円 ~ 4,999円	155人・団体	454,540円	34.8%	2.5%
計	441人・団体	18,303,820円	100.0%	100.0%

【 令和4年度 】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ~	12人・団体	3,630,000円	3.0%	24.0%
50,000円 ~ 199,999円	68人・団体	8,535,600円	17.2%	56.4%
10,000円 ~ 49,999円	135人・団体	2,300,275円	34.0%	15.2%
5,000円 ~ 9,999円	44人・団体	265,964円	11.1%	1.7%
1円 ~ 4,999円	137人・団体	407,738円	34.7%	2.7%
計	396人・団体	15,139,577円	100.0%	100.0%

※ 後援会、保護者会、職員会からの寄付金は除く



#### 4 地域における公益的取り組みに関する状況等

平成 28 年改正社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 28 年 4 月から、「地域における公益的な取組」の実施が法人の責務として位置づけられました。当法人としても、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウ、地域の関係者とのネットワークを活かしながら、当該取組の実践を通じ地域社会へ貢献していきます。今年度の取り組みについては以下のとおりです。

取組類型	取り組みの名称 (対象者)	目的	成果
地域の要支援者に対する配食、見守り等の生活支援	かけこみ 110 番の家 (地域小学校の児童)	地域学区の「かけこみ 110 番の家」に登録	登録事業所付近は、店舗も少なく該当もまばらなため、地域の小学生の安心につながる。
	フードボックスの設置	フードボックスの設置等を通して生活困窮者の支援や食品ロス解消の循環にかかわる。	フードバンク仙台への食品提供（年 12 回）
地域住民に対する福祉教育	中学校職場体験 (地域中学校の学生)	中学生に福祉の仕事としようがいの理解促進のため、授業に参加し講話する。	活動をとおしてしようがい理解につながる。
	高校生向け職場体験イベント	しようがい者体験や福祉機器に触れてもらうことでしようがい分野の仕事理解を深める。	高校 1.2 年生を対象に延べ 46 名に対して実施。
	宮城県小規模法人ネットワーク化協働推進事業への参画（福祉関係者）	若林区内を中心としたの社会福祉法人等のネットワークを形成し、職員育成や地域福祉の向上に努める。	7 団体による職員交換研修及び報告会の実施（地域ネットワーク力と職員の支援力向上。）
地域ニーズを知るためのサロン活動	サロン活動 地域住民との清掃活動	地域住民との交流を通じ地域の福祉ニーズ等の把握を図る	地域の様々な世代の方とかかわりを持つことができた。
その他	生活困窮者に対する就労体験実習（生活困窮者） 就職氷河期世代への就職相談（就職氷河期世代）	生活困窮者への、就労体験の場を提供し、一般就労に向けた支援を行う。 またハローワークで実施するミニ相談会に参加し、職業相談を実施した。	ミニ相談会では 17 名（うち 10 名が就職氷河期世代）への就職相談へ対応する。

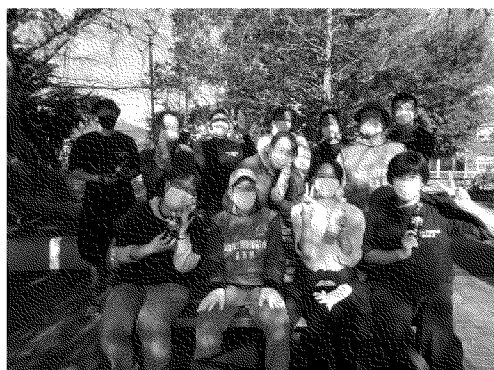
上記取り組みの他、地域向けサロンやイベントを通じ地域の関係者とのネットワーク作りを行い、地域課題の掘り起こしと課題の検討及び情報交換の機会を各事業所で持ちました。今後も新たな地域ニーズに対して積極的に対応していきます。

かけこみ 110 番 (仙台つどいの家)



地域サロン活動

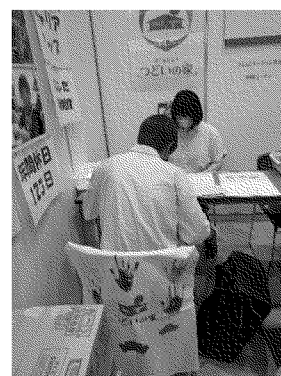
- ・地域住民との清掃活動 (ぴぼっと南光台)



- ・風鈴づくり (ピボット若林)



高校生向け職業体験イベント



5 令和4年度 法人会議・委員会実施状況 補足資料

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	継続した財務改善の取り組み	実施回数	備考
主要会議	経営会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の遂行管理、財務状況等の確認や方針決定</li> <li>新規事業(グライドヘルパー養成研修事業)の検討</li> <li>他</li> </ul>	<p>諸案件の決定</p>	<p>継続した財務改善の取り組み</p>	12回	
	人事委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員人事全般(職員の任免、処遇及び賞金等の見直しなど)</li> <li>ハラスメント対策と体罰強化に向けた検討</li> <li>メンタル不調者の人事、復職判断等</li> <li>相談支援従事者初任者研修などの受講者人選</li> <li>コロナ感染症に伴う職員の就業及び処遇面等に関する検討 (ほか)</li> </ul>	<p>諸案件の決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体罰時間などの労働環境美観把握と課題改善や労働環境改善などの集約振り返り、腰痛対策などへ向け取り組み</li> </ul>	15回	
	法人衛生委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業所における衛生委員会の協議内容や取り組み事例の共有</li> <li>職員健康診断の総括</li> <li>労働環境実態把握・課題抽出</li> <li>感染症対策など</li> </ul>	<p>諸案件に関する全体共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体罰時間などの労働環境美観把握と課題改善や労働環境改善などの集約振り返り、腰痛対策などへ向け取り組み</li> </ul>	4回	
	各事業所衛生委員会 (コバール)	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月:コロナ関係、5月:歯と口の健康作り、6月:熱中症対策、7月:ハラースメント関係、働きやすい職場環境について、8月:生活習慣病について、9月:ストレスチェックについて、10月:喫煙について、11月:ノロウイルス対策、12月:腰痛予防対策、1月:時間外労働について、2月:アンカーマネージメント、3月:年度末まとめ</li> </ul>	<p>衛生委員(9名)が、月ごとに担当することで役割分担が明確化された。そのことにより、主担当のみならず、委員が考えることができたことによりも良かったため、次年度も同じような方法で取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場環境(休憩時間・労働時間)について、額内の整理整頓が少し進んだので、今後も必要な物品、不要な物品を整理しながら、衛生委員会で検討した項目を、職員会議等で考える時間を設けていく必要がある。また、職員の意見を反映させることも必要。</li> </ul>	12回	
	同上 (仙古つどいの家)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染予防(チェックシート)を使用し、各グループで対策を検討</li> <li>職場内の労働環境の課題及び対策(休憩時間について)</li> <li>施設内での事故や怪我、職員の健康状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループごとに、感染に対する認識や理解度をチェックし、改善点をあげ対応している。</li> <li>職員の休憩時間を確保するために、どのような工夫をしたらいいのかなを検討。今年度中には解決策が見つからず、次年度再度検討とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染予防を継続</li> <li>労働環境(休憩時間の確保について)</li> </ul>	2回	
	同上 (アブリ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染について(事業所内での対策・実施状況の確認)</li> <li>働きやすい職場環境について</li> <li>職員の健康管理(7月に健康増進センターのセミナー実施→健康診断書の見方と生活習慣病予防について)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで対策の実施状況を確認し、改善を行った。</li> <li>休憩の取り方や事務時間について確認し、どうすれば休憩や事務時間をとりやすくなるのか、各職員の意見を委員が聞き取り、課題を整理した。</li> <li>昨年度に比べて、今年度は健康診断の結果はよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染予防を継続</li> <li>労働環境(休憩時間・労働時間)について</li> <li>事業所全体で働きやすい事業所づくりを目指すために、委員以外の職員も参加できるようにしていく。</li> </ul>	4回	
	同上 (八木山つどいの家)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①5月20日今年度の検討内容について、働き方、新型コロナウイルス対応、各委員との情報共有。</li> <li>②11月10日ストレスチェック、労働者自己診断チェック、身体の使い方、腰痛。</li> <li>③2月24日 休憩時間、事業所内の環境整備、新型コロナウイルス対応の確認。</li> </ul>	<p>休憩時間については、連携を強めることで取得時間を長く出来ていす。ストレスチェック、労働者自己診断チェックを行ったことで、各職員の状態を確認することができた。</p> <p>事業所内の環境整備を進めることが出来ている。</p> <p>新型コロナウイルス対応について、変更点などを検討することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の休憩スペースについては、事業所の状況から、事務室もしくは外出する等、選択が限られている。</li> <li>活動スペースが2部屋しかないため、感染症対策や活動展開への工夫が必要。</li> <li>年末取得のしやすい環境や職員間の連携が必要。</li> </ul>	3回	
	同上 (若林障害者福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>VDI症候群予防</li> <li>肩こり、腰痛解消運動</li> <li>感染性胃腸炎</li> <li>休憩時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>眼精疲労からくる肩こり等を予防する為、必要な者にパソコンスタンドを導入。</li> <li>休憩時間取得への意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休憩時間の確保な取得</li> <li>メンタルヘルスマケア</li> </ul>	2回	
	同上 (ひびつと南光台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の体罰時間取得について</li> <li>コロナ感染症予防</li> <li>エアコンなどの空調関係の整備など労働環境の改善点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体罰時間においては職員自ら取組意識が根付いてきた。</li> <li>コロナウイルスをはじめとする感染症対策を都度考えながら実施し、大きな疵がりにばならなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体罰時間取得の意識が低下しないよう継続した意識づけを行う。</li> <li>事業所内の書類整理や不用品の廃棄などを行ない、整理整頓されたキレイな事務所を目指す。</li> <li>健診での要所見者もあり、不規則な勤務の事業でもあるので、健康管理についても課題にあげる。</li> </ul>	12回	
	同上 (ひびつと支倉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の労働環境の改善</li> <li>コロナウイルス感染予防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者会議等において記録用のノートPCを準備し、事務時間の縮小につながった。</li> <li>昨年度と継続して感染対策を行うことを確認した。</li> <li>職員会議のなかで左記について話題としたが、次年度は衛生委員会として年間テーマを設定し話し合えるように。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の労働環境の改善</li> <li>引越しに向けた設備・書類等の整理</li> <li>コロナウイルス感染予防の継続</li> </ul>	2回	

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
同上 (ピボット若林)	職員の健康面(メンタルヘルス含)の維持向上等を図る	熱中症予防、食中毒、睡眠に関する意識向上を図ることができた。	熱中症予防、食中毒、睡眠について(睡眠12箇条1)等テーマに基づき実施することで、健康面に対する意識向上を図ることができた。	年間テーマを設定し、ピボット若林/グループホームで一体的に取り組むことができるとよい。	2回	
	職員の健康面(メンタルヘルス含)の維持向上等を図る	熱中症予防、食中毒、睡眠に関する意識向上を図ることができた。	熱中症予防、食中毒、睡眠について(睡眠12箇条1)等テーマに基づき実施することで、健康面に対する意識向上を図ることができた。	年間テーマを設定し、ピボット若林/グループホームで一体的に取り組むことができるとよい。	2回	
権利擁護・虐待防止委員会	各事業所における委員会実施状況の確認 ・それぞれの課題 ・情報提供 など	・各事業所における委員会実施状況の確認 ・それぞれの課題 ・情報提供 など	・各事業所において、創工夫をしながら取り組んでいっている。それぞれの状況にあった内容の研修会を実施している。	ヒヤリハットの報告や検証も含めて話し合いが必要となる。	6回	日本知的障害者福祉協会 権利擁護委員会情報についても随時情報提供していく。
	事業運営会議	・各事業所の事業運営状況や課題等の共有、検証 ・財務状況の把握と課題検証(ほか)	経営会議へ運動、課題への取り組みと実践。		12回	
防災委員会	緊急事態対応マニュアルの周知・更新・改定 ・防災ネットワーク訓練(引渡し訓練含み)の計画・実行 ・緊急事態に伴う諸課題について検討。(台風・崖崩れ・水害・ウイルス等) ・適宜、他委員会・連絡会等と連携する。 ・コロナBCP作成。	・緊急事態対応マニュアルの周知・更新・改定 ・防災ネットワーク訓練(引渡し訓練含み)の計画・実行 ・緊急事態に伴う諸課題について検討。(台風・崖崩れ・水害・ウイルス等) ・適宜、他委員会・連絡会等と連携する。 ・コロナBCP作成。	・緊急事態対応マニュアルの周知・更新を行いました。 ・シナリオを基にした防災ネットワーク訓練(毎月)企画・実施しました。 ・法人防災訓練の計画・実行。(各事業所からの状況付与) ・通所事業所において引き渡し訓練を実施しました。 ・福祉避難所マニュアルの文言改定を行いました。 ・委員会内で、模倣訓練を実施しました。	・緊急事態対応マニュアルの周知・精査・要約作成 ・防災ネットワーク訓練計画・実行 ・法人防災訓練の計画・実施。(引き渡し訓練継続) ・感染症や災害等に関する諸課題の検討。 ・グループワークスペースを利用した、安否確認システムを構築する。	5回	
	職員研修委員会	全体職員向け研修『非常勤等職員研修』『実践報告会』 ・2~3年目職員向け研修『アンガーマネジメント研修』『メンタルヘルスケア研修』『若情解決研修』 上記研修の立案・実施。	参加人数が多い『非常勤等職員研修』『実践報告会』は各所をオンラインでつなぎ実施。コロナ禍の開催方法として、密にならず、交流の少ない事業所職員と直に接しないので、感染対策として適当。	・参加人数が多い『非常勤等職員研修』『実践報告会』は各所をオンラインでつなぎ実施。コロナ禍の開催方法として、密にならず、交流の少ない事業所職員と直に接しないので、感染対策として適当。	・全体職員研修『実践報告会』を理事・評議員への周知。 ・対象年齢数については、受講者数が少数のこともあり、人数を把握したうえで参加職員に幅を持たせることも必要。	5回
経営会議系 系列	法人研修体系に沿った各研修の進捗確認・振り返り。 ・職種ごとのキャリアパスフレームの検討・整理。	・法人研修体系に沿った各研修の進捗確認・振り返り。 ・職種ごとのキャリアパスフレームの検討・整理。	・各種研修については担当ごとに企画を行い、概ね計画通り実施することができた。	・職種ごとのキャリアパスフレームの作成について、いまだ途上。24年3月の運用開始を目指して、23年秋には完成すべく、前期で検討・整理を進める。 ・研修体系については、教育訓練的な研修を体系つけたことで、制度や理念についての内容が取り上げられないなどの課題は見られるように感じる。が、ポリシーを抑える必要もあり、各事業所での対応に期待する。当面現在の研修計画で進めながら、適宜振り返りの中で課題を抽出していく。	4回	
	研修体系等検討会	①事務棟改築のタイミングに合わせた事業展開・新規事業開設の必要性、 ②南光台地域の課題解決に繋がる新たな取り組み、	町内会や民生委員などへの地域課題の聞き取り、南光台エリアの既存サービスの抽出を行なうことができた。	事務棟改築後の事業展開など具体的なイメージ作りには至らなかった。 ひばつと南光台全体の課題や事業のあり方と合わせて、改築に向けて進める必要があるため、令和5年度はひばつと南光台会議を創設し、総合的に検証する場を設けるとした。	3回	
ICT利活用検討会	前年度に抽出した、諸課題を解決するため、令和4年度は、2つの情報共有システムについて導入をすすめる。	前年度に抽出した、諸課題を解決するため、令和4年度は、2つの情報共有システムについて導入をすすめる。	DynaCloudSync及びGoogleWorkspaceを導入。	職員個々のリテラシーが異なるため、いかに利用を促進させていくかが課題。	4回	

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
事業運営会議系列	日中活動支援事業部 連絡会議	・日中活動支援事業部各事業所の情報共有など →利用者、職員等に関する特記 →各事業所の課題検討 →各種加算取得など制度動向の確認・共有（ほか）	・各事業所の利用者・職員・事業所状況の共有により、他事業所の状況をタイムリーに把握できた。 ・法人の財務上の課題などを共有し、年度途中における実施事業の報告がスムーズに行われた。	・コロナにより3年間職員間の交流の機会が薄くなっており、次年度は交換研修・視察研修などを通じて職員のスキルアップを図るべく、情報交換を進めていく。 ・財務状況の課題は継続。利用実態増について、今後ともこまめに情報交換し、日中部門としてできる範囲で改善していくことが必要。	11回	
	地域生活支援事業部 連絡会議	地域生活サポートセンター管理者間及び管理者一部長間の情報共有等（現状把握及び諸課題の整理等）	各事業（ヘルプ/結入期/日中一時支援/相談/グループホーム）の状況について情報共有、情報交換することができた。	次年度はびほっと支倉において大規模改修工事が予定されているため、進捗状況等について情報共有を図る。	10回	
	相談支援事業部 協議会議	(管理者・チーフ) 各事業所の状況確認、相談支援事業体制や展開について、新任相談員の座談会から見えた課題等の検討(全体会)	相談体制については現状維持で確認、新任職員を対象とした座談会の実施、相談事業として法人内他事業所向けに開催できる研修等の案内、相談事業としてのリスクの洗い出しと対応の検討	相談事業としてのリスク対応の検討、新たに相談員になった職員に対する育成や相談事業についての他事業への周知	6回	実施6回のうち1回は臨時開催
	重度障害者支援加算検討会	・重度支援加算ハンドブックの内容確認 ・重度支援加算の支援計画と実際の支援について ・ケース検討	・強度行動障害やアスマン療育センター等の研修内容の共有 ・実際の支援と事業所全体で支援方法を共有するための方法 ・実際の関わっている支援者同士での課題共有	・目閉症や行動障害がみられる利用者の支援については、基礎的な研修を継続する ・事業所全体での支援をしていくために、職員間の課題共有	3回	
	医療的ケア検討会	・各所支援員による医療的ケアの実施状況について共有。 ・課題の抽出、検討、意見交換。 →主に三号研修のあり方、本人からのニーズ、親亡き後の生活等について。	・法人内での実施状況や現場の職員の思いを共有することで、今後の支援員による吸引等をどう考えていくか。実際に経験のない職員もイメージをもちやすくなることなどができた。	・前年度の話し合い内容の伝達がないままスタートしてしまったので着地点のわかりにくい委員会となった。参加者の変更に伴い引継ぎ等あると良い。 ・固定メンバーになりがちなので、議題にあわせて若い職員との同行を求める等学びの場にしていくと良い。	3回	
	居住支援等事業部 協議会議	新たなグループホームの創設準備をはじめ、グループホームが抱える運営等に関する諸課題の整理検討及び新たな居住支援の場の展開に関する検討	新しいグループホーム開設に向けて候補エリア、開設時期、定員等について具体的に話を進め、人居希望アンケートを実施した。	候補エリアは概ね決まっているが、候補地の決定までには至っていない(現在、ハウスマナー等に土地の照会を依頼中)。開設に向けたスケジューリングの再考。職員及び利用者、家族等への周知等。	3回	
	食事サービス従事者連絡会	・各施設の近況報告・年度始めの目標・献立作りで工夫しているところ、コロナ禍でのイベント開催について、アルコールや洗浄機の洗剤コストについて、人材確保について、食材高騰について	・食材の仕入れ先の情報交換・低コストの洗剤の活用・利用者への対応について ・厨房用品の購入、搬入・給食費の値上げにむけた取組など	・継続する食材や光熱水費の高騰への対策 ・人材育成と確保 ・行事食やイベントの実行 ・各所の情報交換	3回	
	PT・OT連絡会	・新職員PTへのオリエンテーション ・各事業所の状況報告と情報共有 ・車いす業者や補装具業者についての情報提供	・OT/PTの技術向上 ・事業所間の連携 ・悩み事相談	・働きやすい環境作りの提案 ・情報共有	2回	
	看護師連絡会	感染対策マニュアルの改正。 各事業所の感染症予防と状況の共有。 ワクチン接種の状況と健康状況の確認。 健康診断、内科相談の報告。 看護指示書と看護報告書の改正。	看護指示書等の書式が統一などよくなった。 感染対策マニュアルの見直しができるようになった。見にくい指摘を受けていたものでより改正したものの成果を次年度期待したい。 同職種同士で情報共有できる場と時間である。	入所時の診断書について見直し。 感染症マニュアルの改正決定。	5回	内WEBにて改正点を確認
	サービス管理責任者連絡会	・各生活介護事業所、GHでの情報共有 ・中間、年度末まとめ等の取り扱い(書類の書き方、考え方、表現方法)の共有 ・日々の業務内(書類や記録等)の改善。 ・日々の業務内(書類や記録等)の改善。	・各生活介護事業所、GHでの情報共有 ・中間、年度末まとめ等の取り扱い(書類の書き方、考え方、表現方法)の共有 ・日々の業務内(書類や記録等)の改善、各職員への周知。サブ管理同士の考え方共有	・個別支援計画とサブサービス等計画の運動性を考えた新たな個別支援計画書の作成 ・各所の取組み等を周知し、自施設でも取り入れられる物を取り入れ、より働きやすい環境へ	4回	※前期に個別支援検討委員会をサブ管理連絡会と別会議として毎月検討を実施予定令和6年度から運用スタート予定

部門 幹 事	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
	南北グループホーム連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者が関係する日中及び地域生活支援職員間の情報共有等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な情報共有の再確認と情報のすり合わせを行なった。</li> <li>入居者の支援においてGH、通所が連携して取り組む支援の課題について、協議・検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催時期は今年度同様の時期で実施。</li> <li>基本的にGHはチャーフが出席しているが、場合によってはチャーフ以外の職員も出席できるとよい。(必要であれば時間帯や開催方法を変更できるとよい)</li> <li>事前の情報シートのやりとりや報告についての共有をクラウドサーバーを活用する。</li> </ul>	12回	2回目にいろいろ連絡会は会議開催が難しく、書面開催と
	採用チーム連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の魅力発信</li> <li>コロナ禍での採用活動の具体化</li> <li>母集団形成方法の検討(学校とのつながり強化)</li> <li>インターシッピング受け入れ事業所の拡大・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生者4名の採用</li> <li>コロナ禍でのインターシッピング実施(33名の申し込みに対して22名の実施)</li> </ul>	採用動画の作成。 継続した学生とのかかわり	5回	
	総務ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務における情報の共有</li> <li>抱えている課題の共有・検討</li> <li>新たな知識、視点等得るための情報等の提供 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務業務ならびに、法人経営・事業の円滑化。</li> <li>オンラインの活用及び技術の習得。</li> <li>職員個々の研修報告による、知識の共有。発表者の理解度の深化等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のため、研修の開催が少なく、オンライン研修が主であったため、報告会をコンスタントに開催できなかった。</li> </ul>	33回	

## 事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

社会福祉法人 つどいの家  
理事長 佐藤 清